

9 補遺・資料

(1) 補遺

① プログラムを受講した学生の声 (1)

1) モリタ製作所：最終報告 (2・3年生／発表パワーポイント)



テーマの定義付け

『人にやさしい診療空間』今までにない新型歯科診療台(チェア・ユニット)の構想

「診療空間」→術者及び患者相互が良好な空間

「今までにない」→新たな視点(マーケティング)

「新型歯科診療台」→全ての歯科診療製品(器具)

1. 騒音の波形

ヘッドフォン内蔵の検出マイクロホンが周囲の騒音を収集、NC回路がその信号を解析する



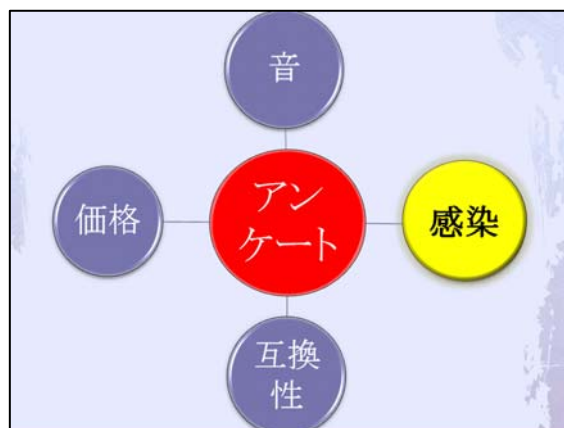
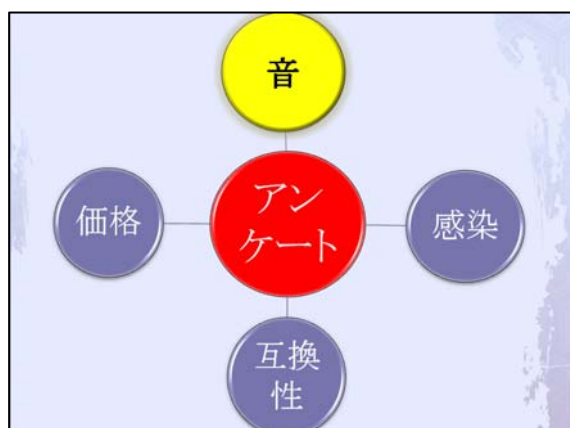
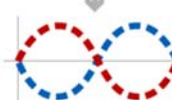
2. 逆位相の音の波形

NC回路が解析した騒音を打ち消すため、逆位相の音を発生させる



3. 騒音と逆位相の音が合成され消えた音の波形

騒音に逆位相の音を重ねて騒音を打ち消す。これにより鼓膜位置での騒音が低減される



器具などの製品において不満な点

◆ クリックしてテキストを入力



(第一回患者アンケート結果 問2)

感染対策

① 歯科医師の問題・ニーズ抽出

- ◆ さまざまな薬液に対応できる素材
- ◆ グリップの滅菌
- ◆ チェアの滅菌
- ◆ ディスポ

② アイデア

- ◆ 背板収納型チェアに滅菌・感染対策機器を内蔵

音

① 患者の問題・ニーズ抽出

- ◆ 歯を削る器具(タービン)の音が怖い

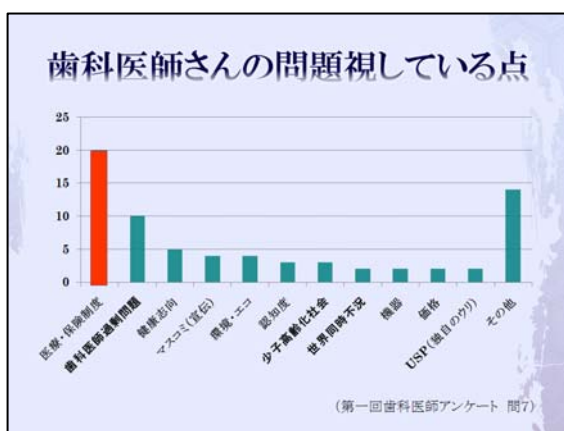
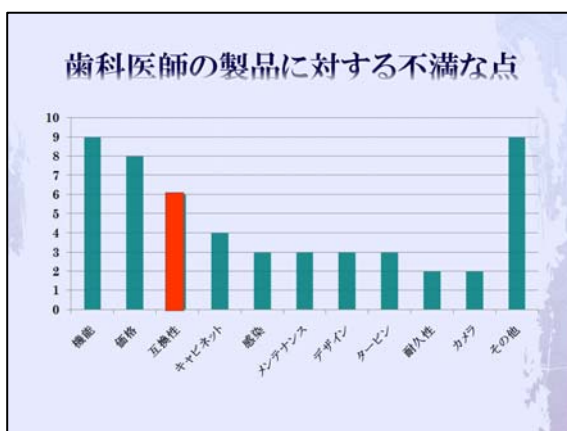
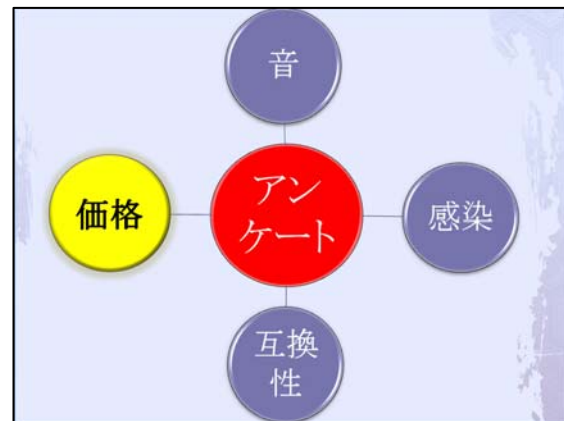
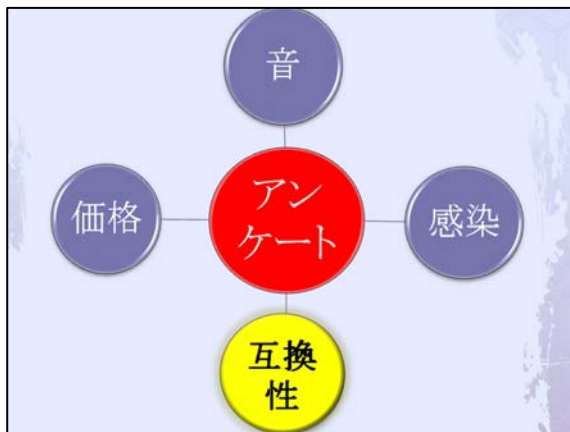
② アイデア

- ◆ ノイズキャンセラー

あるノイズに対して逆位相の信号を重ね合わせると、ノイズが無効化され、物理的にノイズを取り除く、あるいは減衰する

背板収納型チェア





互換性

①歯科医師の問題・ニーズ抽出

- ◆ 他社同士の製品の互換性

②アイデア

他社との互換性



メリット

<音>

- ◆ 音という根本的な問題を軽減・解消できる

<感染>

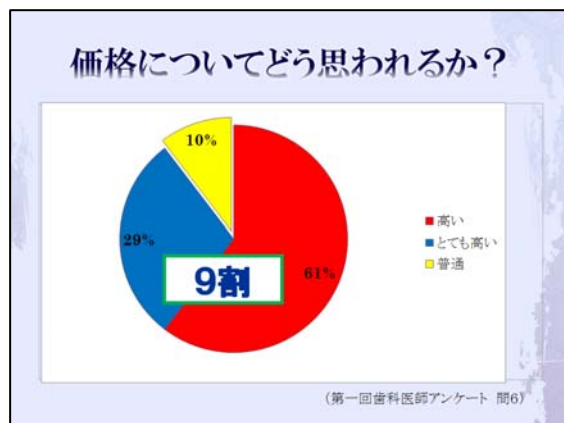
- ◆ 作業の効率化
- ◆ 感染予防の徹底

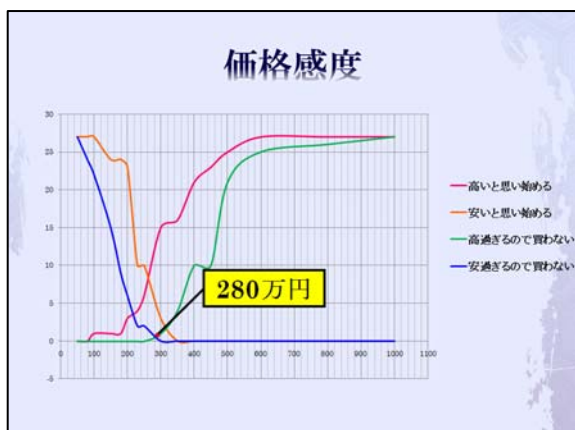
<互換性>

- ◆ 選択の幅が広がる

デメリット

- ◆ 振動に敏感に感じる
- ◆ メンテナンスが困難になる
- ◆ ユニットの統一が困難





最後に...

2) タキイ種苗：最終報告（2・3年生／発表パワーポイント）

『将来の日本農業のあるべき姿と
種苗メーカーが果たせる役割は何か』

発表日：9／26（土）
京都産業大学
タキイ種苗クラス
青山 兼田 瓦谷
瀧上 古田 森川

**TAKII
SEED**



目次

1. 課題提案にあたり
2. あるべき姿
3. 課題提案のプロセス～問題の整理
4. 問題分析
5. 問題の解決策
6. ビジネスモデル提案





9

②あるべき姿になるための手段

家庭菜園、貸農園の普及

6

課題提案にあたり③
タキイ種苗様に伝えること

「世の中を決めるのは民である」

「消費が生産を規定する」

By オルター京都 代表 西川栄郎 様

10

③家庭菜園、貸農園を提案する理由

- I. 消費者が自ら「食」に対する知識（情報）を得ることにつながる <主体的な情報受信>
- II. 消費者が農業に“作る喜び”を見出す



11

④家庭菜園、貸農園の普及による効果

消費者の

行動・意識の変化が、

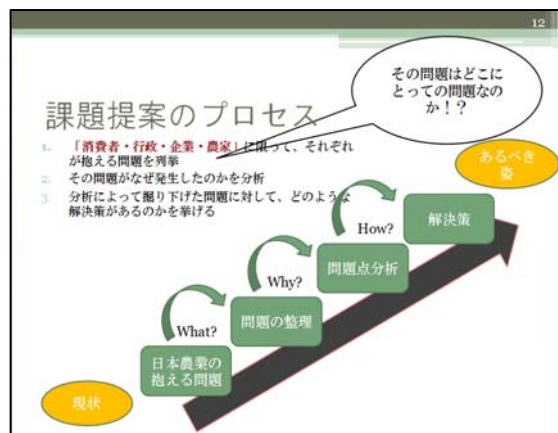
日本農業全体を変える

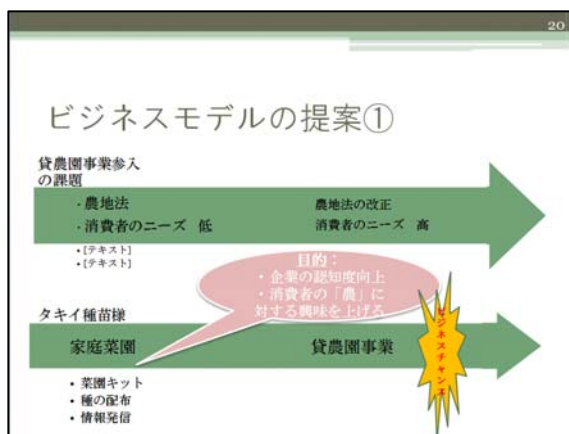
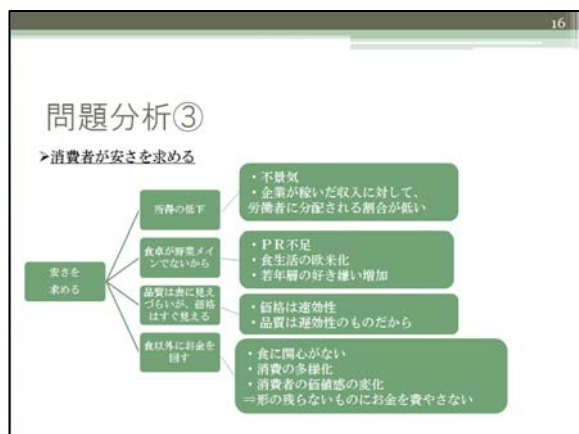
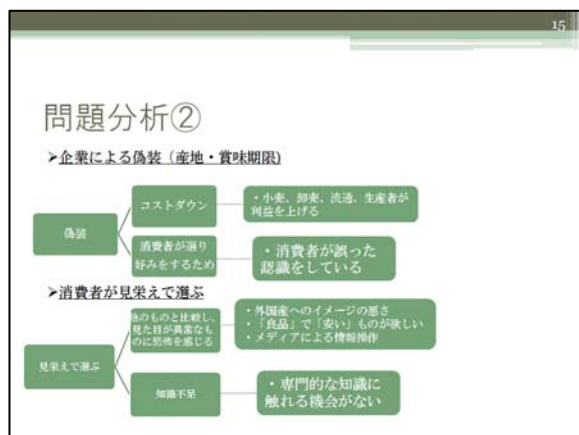
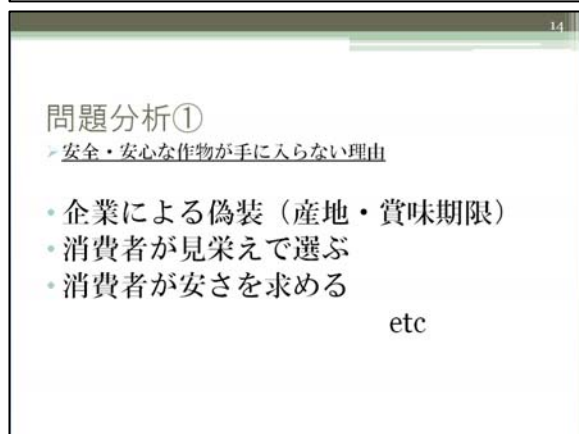
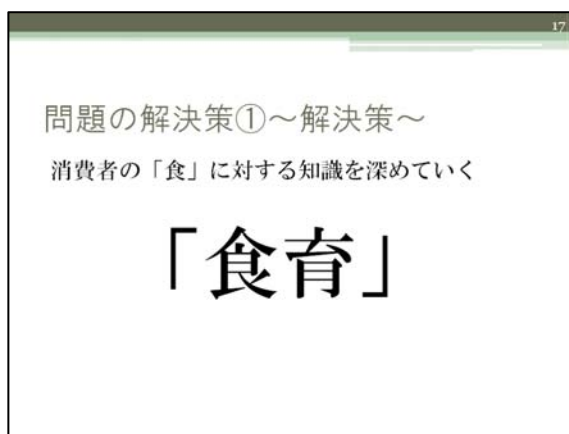
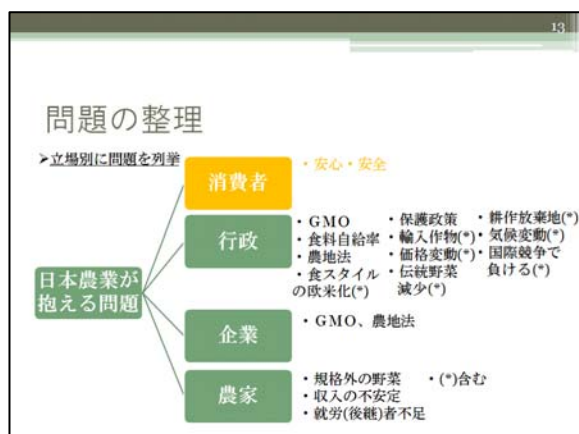
8

あるべき姿①～結論～
消費者が

“安全・安心”

な作物を手にする





21

ビジネスモデルの提案②

家庭菜園

消費者の手に「種」が幅広く届く仕組み作り

- ・菜園キットの普及
- ・新たな顧客層を開拓
- ・取り扱い場所を増やす
- ・バリエーションの増加
- ・種の配布（新聞に付録付け）
- ・情報発信



23

ビジネスモデルの提案④

～種の保有～

1000の年に1度 ビル・ゲイツの食糧危機モシタ氏

世界の食糧生産量を突撃する種を操作するターミネーター

22

ビジネスモデルの提案③

貸農園

事業参入で消費者と積極的に関わっていく

- ・消費者⇄消費者、消費者⇄タキイ種苗様のネットワークを形成
- ・交流イベントの実施（ex.収穫祭...）



24



以上

3）一保堂茶舗：最終報告（2・3年生／発表パワーポイント）

最終報告

一保堂茶舗クラス

片岡信二、小西勇太、高田尚枝、中橋公輔、野田勤、前田裕輔、毛利有沙

もくじ

- ・ 企業紹介
- ・ 課題紹介
- ・ 活動内容
- ・ 企画提案
- ・ 今後の課題



企業紹介

一保堂茶舗

京都の寺町二条に本店を構える日本茶専門店
(創業1717年)

「茶、一つを保つ」

茶葉を独自にブレンドして、一保堂の味を作り
ずっと守り続けている

日本茶の魅力を伝えるために

茶葉の販売・喫茶室『嘉木』
『お茶の淹れ方教室』

その他イベントなど...



お茶の淹れ方教室

- お茶の淹れ方
(抹茶・煎茶・番茶・玉露の4種類)
- お茶に合うスイーツ
- 若い人が多い
- 女性傾向
- 落ち着く雰囲気
- 一保堂茶舗のイメージ
- 普通のお茶とは違い別の飲物
- 京都らしさ
- コミュニケーション



課題紹介

大学生対象の

日本茶の魅力体感型イベントの企画提案

- 急須で淹れる習慣が薄れる
- ペットボトル茶の普及

急須で淹れた日本茶の魅力を伝えよう！

企業訪問

- お茶に対する一保堂の思い
- 飲み比べ(変わる味)
- 自分の好みを知る
- ペットボトル茶に対して
(ペットボトルの水は死んでいる)



活動内容



お茶の飲み比べ

- 自分たちだけで淹れる
- 温度による実験
- 何よりも楽しい
- 淹れ方・知識の共有

お茶摘み・茶香服

- 茶葉の味
- 活用法
- 日本茶の淹れ方・味
- お茶ができるまでの工程
- お茶遊び
- お茶の歴史



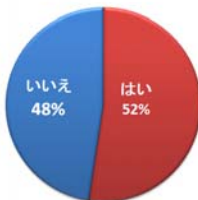
活動を通じて

- 自分たちが日本茶を意識するようになった
(ペットボトルでも)
- お茶はお茶、
より身近なペットボトル茶からでも
例) ジュースを日本茶へ。となるように・・・
↓
- 「日本茶」への意識を刺激しよう

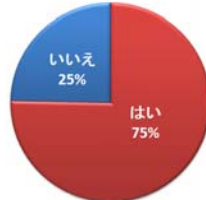
アンケート(京産大生389人)

日本茶の淹れ方を知りたい？

(男)



(女)



アンケート結果からの考え

「日本茶」と聞いて思い浮かべるもの

急須で淹れたお茶

しかし！

急須で淹れることはほとんどない

- 日本茶のおいしい淹れ方を知りたい
- 日本茶の魅力を体感できるイベントに参加したい

圧倒的に女性が多い！

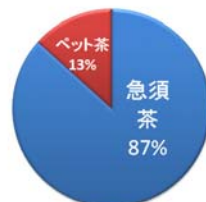
アンケート(京産大生389人)

日本茶と聞いて思い浮かべるものは？

(男)



(女)

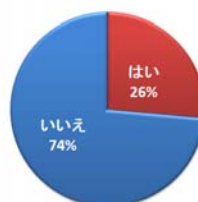


企画提案

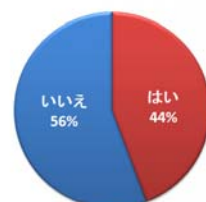
アンケート(京産大生389人)

日本茶のイベントに行ってみたい？

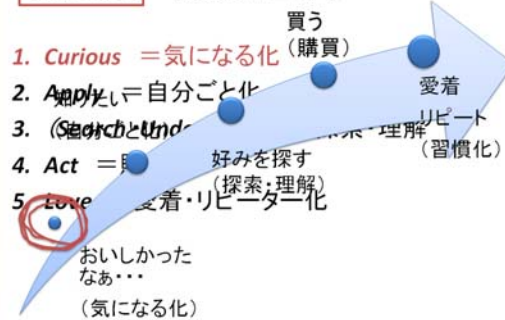
(男)



(女)



CA(SU)AL 消費者心理モデル



アンケート(京産大生389人)

急須でお茶を飲む頻度は？

(男)



(女)



背景と目的

急須でお茶を淹れる習慣の薄れ

急須で淹れたお茶の魅力を知らない

まずは、「おいしさ」から知って欲しい

「おいしい」から日本茶への意識を刺激しよう

はちよん茶舗

内容: 食後にくつろいでいる学生に、日本茶を
無料でふるまう

場所: 学内のカフェ『84』

対象: 大学生(とくに女子)

日時: 10月8日(木)、9日(金)

昼休み、3限目～4限目



一保堂様にとってのメリット



なぜ『84』なのか?

- ・『84』の客＝カフェに興味がある
(おしゃれ志向)
- ・女子が多い
(女子の「知りたい」を刺激)

はちよん茶舗は第一段階
↓
次の段階のイベントが必要

さらに・・・

『はちよん
茶舗』の
定期開催

『ゆうぐれ
茶舗』の
四季開催化

京都中の大
学に日本茶
を楽しめる
ブース設置

ゆうぐれ茶舗

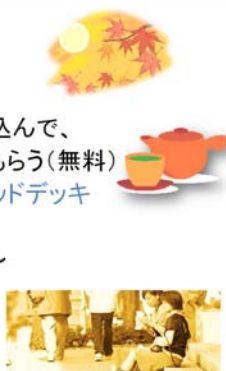
内容: 帰宅前の学生を呼び込んで、
自分でお茶を淹れてもらう(無料)

場所: 学内に新しくできたウッドデッキ

対象: 大学生(とくに女子)

日時: 11月 4限目終了時～

集客方法: 『はちよん茶舗』
で告知

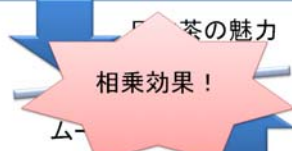


今後の課題

- ・ 日程
- ・ 危機管理(ブランド・安全面)
- ・ 価格面(無料でいいのか?)

目的

- ・ 淹れ方、淹れる楽しみを知ってもらう
- ・ お菓子で際立つ日本茶の味

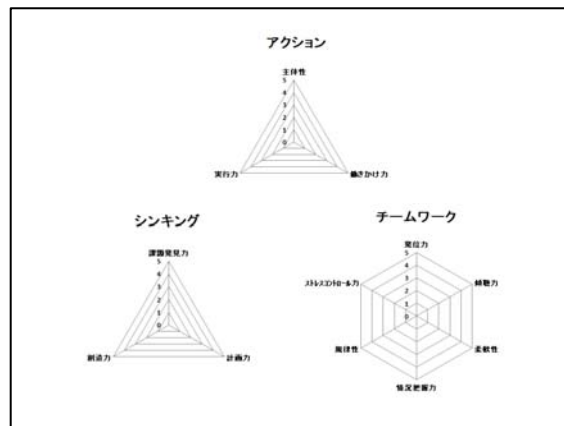


- ・ 授業も終わり、「おつかれ」モードの大学生に
「ちょっとお茶でも飲んで帰りませんか」
- ・ ライトアップされたウッドデッキ

4) 京都産業大学：最終報告（2・3年生／発表パワーポイント）

O/OCF-PBL 京都産業大学チーム 原・鈴木・森・佐藤・山田	社会人基礎力を身に付けるとどんなメリットがあるのか。 ● 自立性を養うことができる。 ● 社会人基礎力＝社会が必要としている力 ● 社会に出てからの立ち位置がわかる。																					
～課題～ 社会人基礎力が付く、学生による、 学生のためのカリキュラム・マップ の作成	社会人基礎力とは・・・ <table border="1"> <thead> <tr> <th>①前に踏み出す力 (アクション)</th> <th>②考え抜く力 (シンキング)</th> <th>③チームで働く力 (チームワーク)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・主体性</td> <td>・課題発見力</td> <td>・発信力</td> </tr> <tr> <td>・働きかけ力</td> <td>・計画力</td> <td>・傾聴力</td> </tr> <tr> <td>・実行力</td> <td>・創造力</td> <td>・柔軟性</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・状況把握能力</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・規律性</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ストレスコントロール力</td> </tr> </tbody> </table> この3つの能力と12の能力要素から成り立っています。	①前に踏み出す力 (アクション)	②考え抜く力 (シンキング)	③チームで働く力 (チームワーク)	・主体性	・課題発見力	・発信力	・働きかけ力	・計画力	・傾聴力	・実行力	・創造力	・柔軟性			・状況把握能力			・規律性			・ストレスコントロール力
①前に踏み出す力 (アクション)	②考え抜く力 (シンキング)	③チームで働く力 (チームワーク)																				
・主体性	・課題発見力	・発信力																				
・働きかけ力	・計画力	・傾聴力																				
・実行力	・創造力	・柔軟性																				
		・状況把握能力																				
		・規律性																				
		・ストレスコントロール力																				
はじめに このマップは社会人基礎力を身に付けるためのマップです。 その中で学生が大学の授業、施設、制度をフルに活用し、自己実現に向けて意欲的に学習に取り組んでもらうことをねらいとしています。	チームワーク 発信力 傾聴力 状況把握力  ストレスコントロール力 柔軟性 規律性 主体性 働きかけ力 実行力  アクション シンキング  課題発見力 計画力 創造力																					

社会人基礎力の定義		
分類	能力要素	説明できる例
「 共通 」の基礎力	主体性	物事に進んで取り組む力 自分の強み・弱みを認識し、強項に任せても自信を持って弱項に任せても自分自身に責任を負い、他者に迷惑を及ぼさず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけを促す力 相手と納得するうえに、ともに、協力することの必然性(意義、理由、内容)などを伝え、行動できる 他人に対して他者の意に寄り添ったうえで、相手の手段を活用する力がある 周囲の人を動かして目標達成がはたけようとする、働きかけ力
	実行力	目的を設定し、進捗に行動する力 目的を達成し、実行を継続し、目標達成に向けて粘り強く取り組める力がある 失敗を悔やまず、とにかくつらくなってもあきらめず結果を持って、取り組むことができる 強い意思を持って、困難な状況に対処していくために粘り続けることができる
	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明確に力にかする力 結果への「不安」を明確にして、その「不安」の裏に、何が問題なのかを明確に把握できる 課題を分析し、課題の「裏」の情報を整理・分析できる 課題を明らかにする、課題の「裏」の情報を整理・分析できる
「 共通 」の基礎力	計画力	課題の解決に向けた作業の工程を明確にして、最終目標に向けて、実行性の高い計画を立てられる力 作業の工程を明確にして、最終目標に向けて、実行性の高い計画を立てられる力 課題に計画・目標設定の裏に、何をやるべきかがある 結果的に実行・不実行の判断ができる、適切な計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力 現状のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる 従来のものの発見と創造、新しいものや価値を生み出すことができる 従来のイメージ(型)に挑戦し、新しいものを生み出すもののことを指している

[illegible]

診断書

アクション

- 講義で1番前に座ってみる。
- グループで集まった際に最初に発言してみる。
- 友達に誘われる側から誘う側へ。能動的になろう。
- 原付、自転車まで遠くまで行ってみる。
- 知らない分野のバイトをやってみる。
- 告白しちゃう

[illegible]

シンキング

- 絵、文章、日記をかいてみる。
- 明日の計画を立ててみる。
- 自己診断をやってみる(自分を見つめなおすきっかけに)。

[illegible]

チームワーク

- 共同体(サークル・地域団体)に参加してみる。
- 人の話にしっかり耳を傾けてみる。
- 小さな約束でもしっかり守る。
- 分かりやすいメールをするように意識する。
- キライな人のステキな所を見つける。
- 新しいバイトをやってみる。

体験談



アナウンスメント

↓
刺激

↓
意欲

↓
行動

↓
社会人基礎力

京都産業大学案内

『知って得する本』

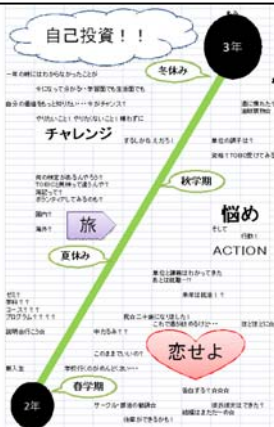
『課外講座のご案内』

『F工房』

『留学ガイド』



最後に



社基力サークル！？

5) 1年 優秀賞 (チーム 三沢)

4回生インタビュー～ 人・言葉編～

2クラス チーム三沢(プロレスラー)

インタビュー内容

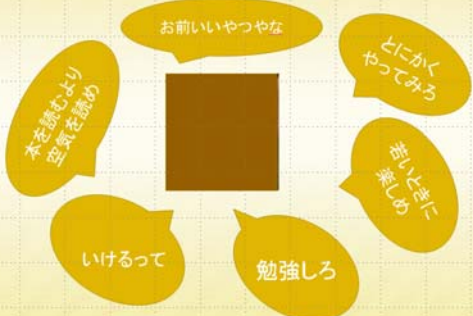
①大学生活の中で家族、友人、先生、先輩などから
言われたことで心に残っている言葉

②大学生活をふり返って、今感謝したい人

アジェンダ

- ・メンバー紹介
- ・インタビュー内容
- ・インタビュー① 言葉
- ・インタビュー② 人
- ・感想及び考察

インタビュー① 言葉



お前いいやつやな

とにかくやってみろ

辛いときに
楽しめ

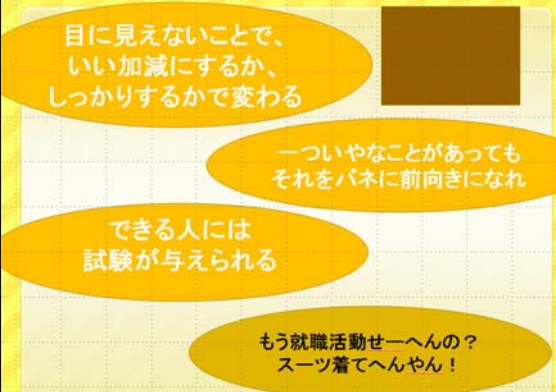
勉強しろ

いけるって

本を読むより
空気を読め

メンバー紹介

- ・新田侑幹(ゆうちゃん)
- ・井出愛里(いでちゃん)
- ・片山広志(やまん)
- ・兼田明典(かねたん)
- ・富川正樹(とみー)
- ・永見悠里子(ゆり)



目に見えないことで、
いい加減にするか、
しっかりするかで変わる

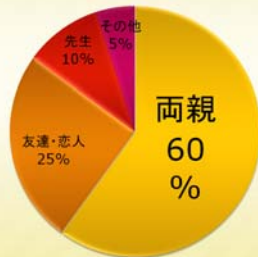
一ついやなことがあっても
それをバネに前向きになれ

できる人には
試験が与えられる

もう就職活動せーへんの?
スーツ着てへんやん!

インタビュー② 人

感謝したい人



主な理由

両親・・・大学に行かせてくれた
経済面の援助をしてくれた

友達、恋人・・・恋人や友人のおかげで
大学生活を楽しく過ごすことが出来た

先生・・・勉強の面でお世話になった

感想及び考察

- 協力することの大切さを学んだ
- インタビューの仕方を知った
- 自分の礼儀を見直せた
- 積極的になれた

⑥1年 準優秀賞（チーム ヒノキオ）



現在の住居

- ★ 学生の住まい環境について
 - －自宅→約4割
 - －アパート→約5割
 - －寮→約1割



➡ 人暮らしの学生が大半！！

メンバー紹介

- ★ 林 宏美 (外国語学部)
- ★ 田中 景子 (文化学部)
- ★ 有近 秀太 (経済学部)
- ★ 中原 健也 (経済学部)
- ★ 日野 圭脩 (経営学部)

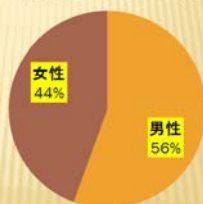
朝食

- ★ 学生はどの程度の頻度で朝食を食べているのか？
 - －毎日食べている→約4割
 - －時々食べている→約2.5割
 - －ほぼ食べていない→約4割
 - －全く食べていない→約0.3割

➡ 朝食を食べていない生徒が大半！！

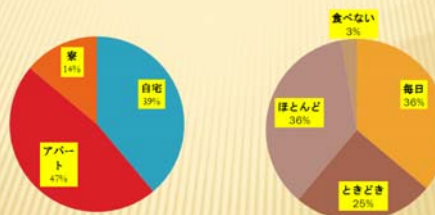
概要

- ★ 二年生の学生生活に関連する私生活のアンケートを実施。
- ★ 男女比は約3：2



住居

朝食



住居と朝食を食べているかの比較

アルバイト

× アルバイトの頻度

- 定期的にしている→70%
- 時々している→11%
- していない→19%



× 1週間の平均勤務時間

- 5h以内→27%
- 5～10h→37%
- 10～15h→12%
- 15～20h→6%
- 20～25h→15%
- 25～30h→0%
- 30h以上→3%

まとめ

- × ちゃんとした生活をおくれていない学生が多い。
- × 家事やアルバイトが勉学の遅れに大きな影響を与えている。
- × 睡眠時間と朝食を食べる頻度が自宅にすんでいる人たちに比べ、極めて少ない。

平均睡眠時間

× 学生はどれくらい睡眠をとっているか。

- 4時間以内→3%
- 4～5時間→19%
- 5～6時間→39%
- 6～7時間→28%
- 7～8時間→8%
- 8～9時間→3%

→ 十分な睡眠を取れていない!!

気づき・振り返って

× 気づき

- 向上心を持って働くこと。
- 主体性の大事さ。
- 週末明けの早起き。
- プレゼンのノウハウ。
- 計画力と実行力。
- 責任感の重要さ。

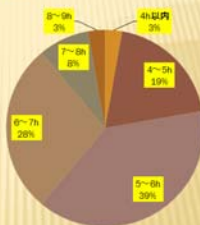
× 今回のプレゼンを振り返って

- アンケートに答えてくださった学生さん一人ひとりが真剣にアンケートに答えてくださって嬉しかった。
- パワーポイントづくりに苦戦した。
- 皆さんの前で話をするのが非常に緊張しました。

アルバイト



平均睡眠時間



アルバイトと睡眠時間の比較

これまでの経過

- 住居**
 - ・自宅から通っている人たちは半分にも満たない。
 - ・アパートや寮を借りて一人暮らしをしている学生が多い。
- 朝食**
 - ・毎日食べている人たちはわずかに4割弱。
 - ・時々やほとんど食べないなど朝食を食べていない学生が多い。
- アルバイト**
 - ・定期的にアルバイトをしている学生が大半を占める。
 - ・学生は学校の後、ほとんどの時間をアルバイトに費やす。
- 睡眠**
 - ・睡眠時間が非常に少ない学生がいる。
 - ・ほとんどの学生が十分な睡眠をとれていない。

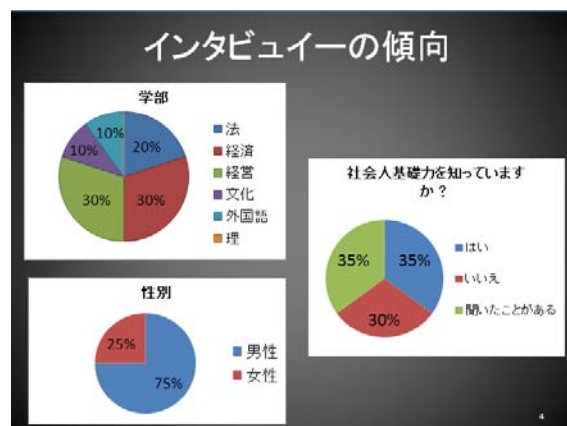
⑦1年 準優秀賞 (チーム マリカ)

**4回生インタビュー
～大学生活について～**

チームマリカ

松下真理香(経営) 松尾直樹(外国語)
山本嘉紀(経済) 今井清貴(経済)
西脇美那(文化) 小林裕佳(外国語)

1



目次

- ・ インタビュー活動の紹介
- ・ インタビューの傾向
- ・ 質問Ⅰの分析
- ・ 質問Ⅱの分析
- ・ 印象深かった方について
- ・ インタビューの振り返り
- ・ PBLの振り返り

2

**質問1について
～大学生活を振り返ってやっておけば良かったと思うこと～**

- ・ 資格を取ることに 5人
- ・ 単位を取ることに 4人
- ・ 授業を理解することに 4人
- ・ 遊ぶことに 4人
- ・ 就職活動に 3人
- ・ サークルに入ること 3人
- ・ 海外旅行に行くことに 3人
- ・ アルバイトをすることに 2人
- ・ 英語の勉強をすることに 2人
- ・ 学部の専門な勉強をすることに 1人
- ・ 留学に行くことに 1人
- ・ 自動車免許の取得することに 1人
- ・ 神山祭で模擬店を出すことに 1人
- ・ バイクの中型免許を取ることに 1人

5

インタビュー活動の紹介

- ・ 対象: 4回生
- ・ 人数: 20人
- ・ 関係:
 - － サークル・部活動の先輩
 - － 進路アドバイザー
- ・ 質問内容:
 - － 大学生活を振り返ってやっておけば良かったと思うこと
 - － 大学生活で1番楽しかった思い出について

3

**質問2について
～大学生活で1番楽しかった思い出は？～**

- ・ 部活 5人
- ・ ボランティア 2人
- ・ 留学 2人
- ・ 神山祭 2人
- ・ 飲み会 2人
- ・ サークル活動 2人
- ・ 夏合宿 2人
- ・ バイト 2人
- ・ PBL 1人
- ・ 友達とのキャンブ 1人
- ・ 一人暮らし 1人
- ・ 学生らしい日常生活 1人
- ・ 英語 1人
- ・ 価値観 1人
- ・ 目標 1人
- ・ 友達が増えた 1人
- ・ インカレ 1人

(各1人) 6

特に印象深かった方の紹介

～外国語学部 英米語学科の男性の先輩の話～

・大学生活でしておけばよかった事

- － 遊ぶこと
- － 専門の勉強

・大学生活で楽しかった事

- － アメリカ留学
- － バリ島でのボランティア活動



・自分が挑戦したい事と自分がしておくべき事のバランスが大切。
 ・ネガティブシンキング→ポジティブシンキングの転換が重要。

7

インタビューの振り返り

- ・ インタビュー内容から感じたこと
 - － これから大学生活に生かせるものばかりで参考になった
 - － 学生生活を充実させるためには積極的に行動することが大切だと思った
 - － 勉強も大切だが、今しか出来ないことをすることも大切だと思った
 - － いろんな事に挑戦することで自分を成長させるということを学んだ
- ・ インタビュー活動から感じたこと
 - － 話を膨らめるのが難しかった
 - － どこまで聞いて良いのかの判断が難しかった
 - － 自分の働きかけ方による内容の濃さの違い
 - － 一般常識を知っておかないと話を膨らめることが難しくなる

8

PBLの振り返り

- ・ 合宿での学び
- ・ 友達
- ・ 意見をまとめる作業
- ・ 月曜1限遅刻欠席厳禁
- ・ プレゼンを通して
- ・ チームで働く力



9

(2) 資料 1

平成21年度 春学期 O/OCF-PBL2・3学生アンケート集計

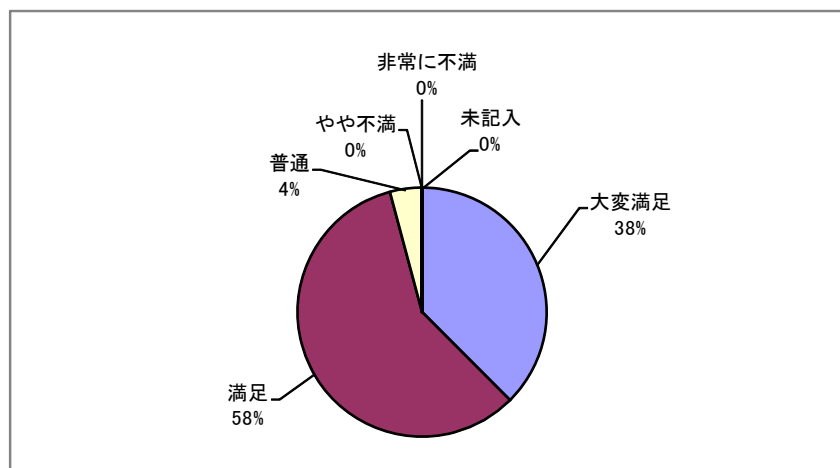
平成21年9月26日実施

受講生:24名 回答数:24名

1. プログラム全体の内容について満足度はどの程度でしたか

大変満足	満足	普通	やや不満	非常に不満	未記入	総計
9	14	1	0	0	0	24

単位:人

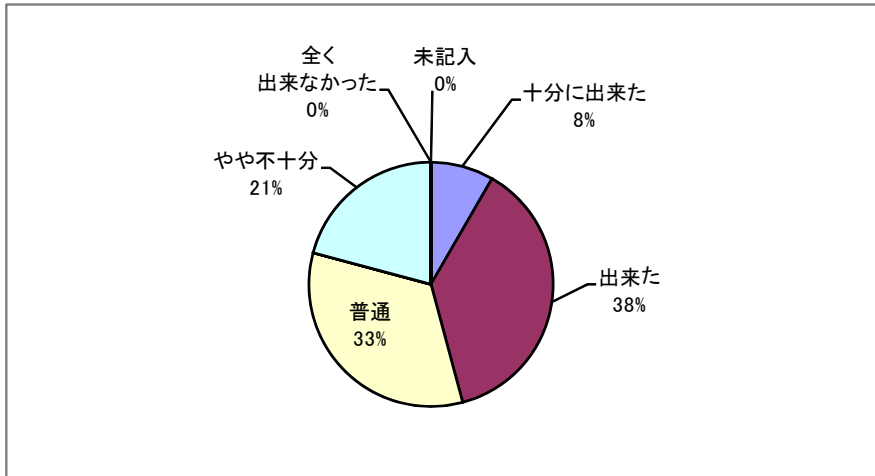


評価	具体的理由<一部抜粋>
大変満足	メンバーから多くの刺激を受け、成長できた。
	チームとして活動を行い、さまざまな価値観にふれることができたから。
	企業の方の生の声が聞けたこと。
	自分の中で社会人基礎力がついたと思えるから。
	活動における制限がほぼないに等しい点。
	教員、学生と共に意識が高かったことに満足しました。
	インタビューや話し合いなど日常ではあまり体験できないことが体験できた。
満足	大学内ではリーダー、チームのあり方等、PBLでしか経験できない苦悩がありました。
	大学からのバックアップを感じました。
	興味のある分野について知識が増えた。
	企業、先生、先輩との交流という今までにない体験ができた。
	自由にやらせてもらったことで、自分自身で考える力がついた。
	自分たちで企画を考える場を提供してもらえた。
	プレゼンテーションの講習会をしてほしかった。
	受身の授業ではなく、主体的に受講者に考えさせる授業だったので、主体性が身につきました。
	社会的にはどうなのか、厳しくいち社会人として接していただけなので自然に力のつく点。
普通	
やや不満	記入なし
非常に不満	

2. 課題に対する自らの取組みについて(自己評価)

十分に出来た	出来た	普通	やや不十分	全く出来なかった	未記入	総計
2	9	8	5	0	0	24

単位:人

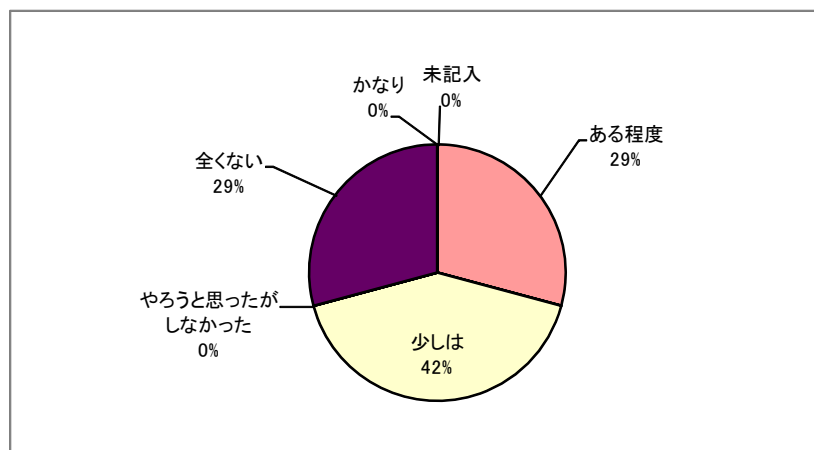


評価	具体的理由<一部抜粋>
十分に出来た	自分たちなりに新しい視点を見つけ出して取組んだ。また活動頻度では一番だったと思う。
出来た	プロセスやプレゼンは良かったが、絞込みが少し甘かったように思う。
	今持っている自分の最大限を発揮したと思う。
	チームが停滞しているときに刺激を与えられたと思う。
	リーダーとしてクラスのメンバーのモチベーションを高める努力をしました。
	自分がやるべきことはなんとかできたと思うが、もう少しやれた気がする。
	なかなかできたと思うが、パワーポイント作成等にあまり携わることができなかった点。
普通	もう少し分析していい案が出せたはず。
	最初はなかなか積極的に踏み出せないところが多々あったが、前より今は積極的に自分が出せている。
	自発的に先頭に立って何かをすることはなかった。
	夏休みに入るとなかなか取組んでいくことが難しい。
	リーダーに任せるのではなく、チームのために自分は何ができるのかを考え、行動できるようになった。
	チームによっても参加度の違いがあり、全体での交流が少なかった。
やや不十分	もう少しプレゼンなど工夫できたと思う。
	提案としては間違っていないが、もっと良いものがあると思った。根拠が弱いと思う。
全く出来なかった	記入なし

3. PBL実践を受講して、これまで履修した科目で役に立った科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
0	7	10	0	7	0	24

単位:人

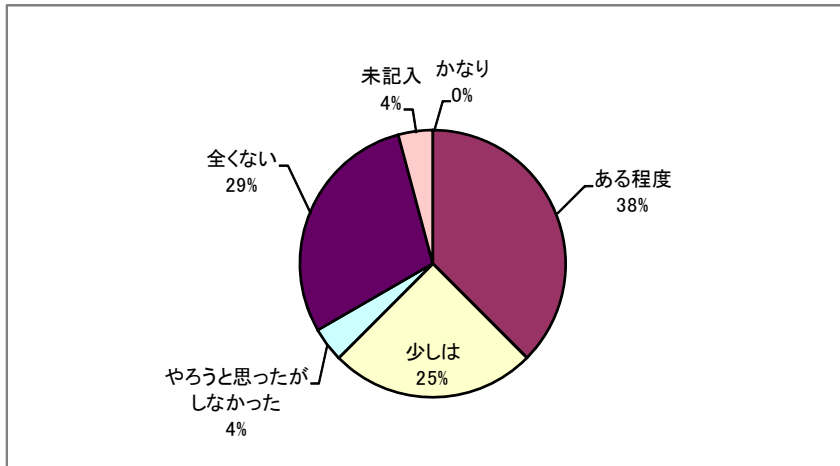


評価	役に立った科目	具体的理由＜一部抜粋＞
かなり役に立った	記入なし	全ての科目において、積極的に授業を受けようという意識に変わった。
少しは役に立った	流通経済論、地球環境	企業の問題分析をするときに多面的に見れるようになった。
	ヘルスケア分析A	論理的な思考など、提案の説得力を増やす為の工夫を学ぶことが出来た。
		問題解決能力が身につくから。
	経営組織論	積極性を見られる授業だった。
	社会調査A	アンケートの作り方などを習ったから。
	クリエイティブの可能性(コンソーシアム)	イベントの開催にあたって、広告代理店の方等から直接講義していただける点。
	営業力	マーケティングに関して知ることが出来た。
	基礎遺伝学	タキイ種苗でのF1の話などが分かりやすかった。
	キャリア系授業	グループワーク
	演習・ゼミ他	自分の意見をはっきり言えるようになった。
		積極的にリーダーシップを取るようになった。
		論理的に考える姿勢が生かされました。
	経済の専門科目	記入なし
	ミクロ	
やろうと思ったがしなかった	該当者なし	
全くない	記入なし	まだグループワークを必要とする科目がないため。
		経済的な課題が多いので法律などが出てこなかった。
		今はまだその実感はないので、役に立った科目はあるとは言えない。

4. PBL実践を受講したことがきっかけになって、今後積極的に履修しようと思う科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったが しなかった	全くない	未記入	総計
0	9	6	1	7	1	24

単位:人

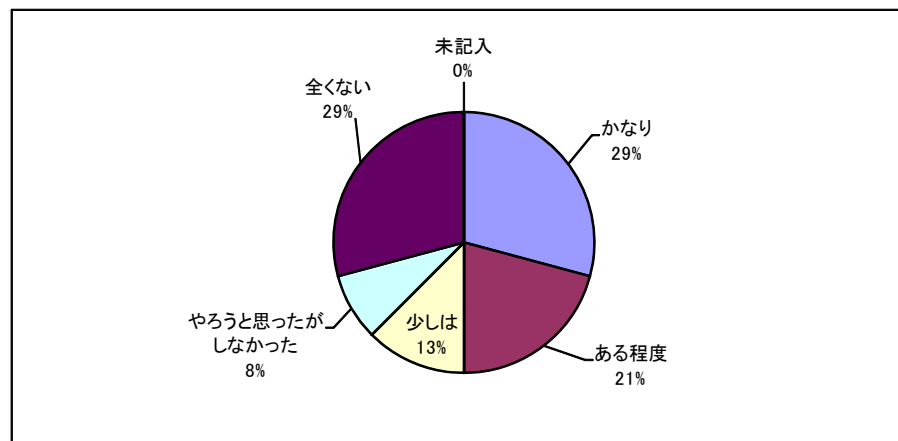


評価	履修しようと思う科目	具体的理由<一部抜粋>
かなりある	経営戦略論、マーケティング論	ビジネス的問題解決をするときに必要だが、自分には足りない知識だから
	農業政策	今回の課題を通じて農業に興味をもったから。
	マーケティング、広告	イベントの企画に必要な知識だと感じた。
	キャリアデザイン	もっと自分のキャリアについて考えたくなったから。
	コミュニケーション論	個人間の意思疎通を勉強するため。
	ヘルスケア分析A	問題解決能力が身につくから。
	演習・ゼミ他	ゼミではチームワークを必要とするため。 農業系なので背景をみる意味でも、自然や環境に関わるものを見ようと思う。
ある程度ある	経済・経営などの専門科目	もっと様々な視点から物事をとらえられるようになりたいから。
	ディベートできる授業	自分の考えを周りに伝えることがまだ苦手なので。
	演習・ゼミ他	唯一の少人数形式の授業であるから
		秋から始まる少人数制だから。
少しはある	記入なし	どういふものがあるか分からないので、今後は視野を広げます。
やろうと思ったがしなかった	記入なし	あくまでPBLはPBL、授業は授業と割り切っているから。またPBLに制限されたくないのと、自分の受けたい授業を履修したいため
全くない	記入なし	現段階では不明。

5. PBL実践を受講したことがきっかけになって、授業科目以外で積極的に取組んだものはありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
7	5	3	2	7	0	24

単位:人



【具体的に取組んだ内容】

評価	具体的に取組んだ内容	具体的理由<一部抜粋>
かなり取組んだ	ロジカルシンキング、問題解決など。	考えるプロセスが相手に伝える手段として必要だから。
	企業経営論、ロジカルシンキングの専門書	将来、経営をしていくうえで不可欠であると考えたので。
	就職勉強会の立ち上げ	自分はまだまだ社会人基礎力にしろ、論理的思考も十分ではないと気づいたので、身につけるためにも就職勉強会を立ち上げた。
	自分の適性や考え、性格などを考えた。	自分のことを知らない又何も始まらないと思ったので。
	居候のバイト、海外旅行	人と人のつながりは大事だと思った。
	記入なし	日常生活で色々と意識するようになりました。 お茶について自分なりに知識を集めた。
ある程度取組んだ	本屋で今まで読んだことのないような本を読むようになった。	農業分野の知識が無さ過ぎたため。
	ボランティア、新しい組織の立ち上げ。	行動することの大切さを知り、行動を起こさないことで損をすることを知りました。
	自己発見とキャリアプラン	グループワークのときに自ら進歩を行った。
	課外講座	記入なし
	ピアサポート	記入なし
少しは取組んだ	部活	受身でなく積極的にやとうとする気持ちが持てた。
	キャリアデザイン応用	グループワーク・フィールドワークが楽しい。
やろうと思ったが取組まなかった	記入なし	どういものがあるか分からないので、今後は視野を広げます。 課題で余裕がなかった。
	記入なし	普段から積極的なのでPBLに影響を受けて何かをしたことはない。 他にどんなことに取組めるのか分からなかったため。

6. 説明会から最終報告会まで全プログラムについて意見や感想

『1クラス』

- ・ 最初の合宿にはあまり興味が持てませんでした。最初の授業ではもう少しインプットの機会があってもいいかもしれません。
- ・ 次回の授業では、チームの人数を考え直した方がいいと思います。理由は3点あります。1つはリーダーの許容範囲の人数は10人も補えない。2つ目は「ほう・れん・そう」が大変、3つ目に課題解決の低水準化を引き起こす可能性があるからです。
- ・ プログラムまではよかったのですが、最後にアンケートが多く、どの班もプレゼンの準備などで疲れた状態で適性テストをしてもあまり意味がないと思う。
- ・ テーマが難題だったのでもう少し最終報告会まで時間があればよかったと思った。今回のテーマに取り組んだことにより、報告会まで私たちが行った過程の大切さを感じた。
- ・ とてもいい経験をさせて頂いたので、感謝しています。
- ・ 長いようですごく短かった。最後はぎりぎりで大変でしたけど、追い込まれていくうちにその中で得られるものがたくさんありました。

『2クラス』

- ・ 報告会で評価する人が、企業向けなのか専門家向けなのか分りにくかったのであらかじめ明示してほしい。
- ・ チームビルディングをもっとしっかりして3回生と2回生のつながりをもっと強化して欲しい。
- ・ PBLを優先できるような人選面接をするべき。
- ・ 担当の先生方と関わる機会を増やして欲しい。
- ・ 改善点は特になく従来のプログラムで満足しています。授業の性質上「変更する、改善する」ということが簡単に言えず、難しいにも関わらず、大学側の改善に対する試みは素晴らしいと思います。
- ・ スケジュール的に厳しい部分がありました。履修ガイダンス直後ということもあり、全体的に余裕がなかったと思います。また、発表時間に関しても15分程度の方が充実したものになると思います。
- ・ 全体で何かに取り組む機会があればと思いました。
- ・ まだ自分は始まったばかりだと思うので、今後は頑張っていきます。

『3クラス』

- ・ 最初に合宿を行ったことは良かったと思う。他人を知ることでライバル意識が持てました。
- ・ 特にこれと言った改善点はありませんが、PBLでもっと研修をすれば良いと思う。アドバイザーの方から意見がもらえるなどの授業をへらすことはないが、土日等でも前もって予定が分かっていたら調整することは可能であり、もっと充実したPBLになるのではないのでしょうか。あと、教室をスムーズに借りることが出来たらなと思います。
- ・ クラスによって前回の経験者の人数にばらつきがあったので、それがどのように影響したのかが気になる。
- ・ 最終報告会後の1回生が見学しているときに、質問会のようにもっと1回生と関わる機会があった方が、1回生のモチベーションも上がると思う。
- ・ 夏休みをいかに使うかが難しい。
- ・ 最初の合宿プログラムは良かったと思う。基礎的な思考方法(マインドマップ)を身につけることができ、初対面の人同士で一夜を明かして語り合えたこと。PBLに対する熱い熱意が沸いた。
- ・ 知らない間に振り返ってみると、色々な力がついているなと実感できる、素晴らしい楽しい授業でした。自分を見直すいい機会になりました。一人ひとり得るものは違うと思うけれど、個々がいい経験になったと思います。

『4クラス』

- ・ 非常にためになったと思う。しかし、社会人基礎力と言え規律を守る点においては努力不十分の気持ちりが否めなかった。次回するのであれば、時間厳守を最低限貫きたい。
- ・ アンケートやシートが多かったので疲れましたが楽しかったです。
- ・ チームの人数が若干少ない気がした。3回生が1人だけというチームだったので、その3回生が非常にやりにくそうにしていた。この点をもう少し考えていただくことができればよかったかなと思います。

(2) 資料2

平成21年度 秋学期 O/OCF-PBL1学生アンケート集計

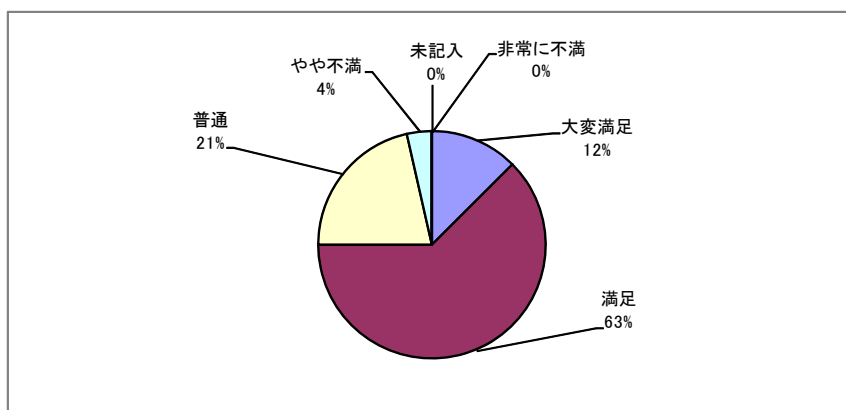
平成22年1月23日実施

受講生:57名 回答数:56名

1. プログラム全体の内容について満足度はどの程度でしたか

大変満足	満足	普通	やや不満	非常に不満	未記入	総計
7	35	12	2	0	0	56

単位:人

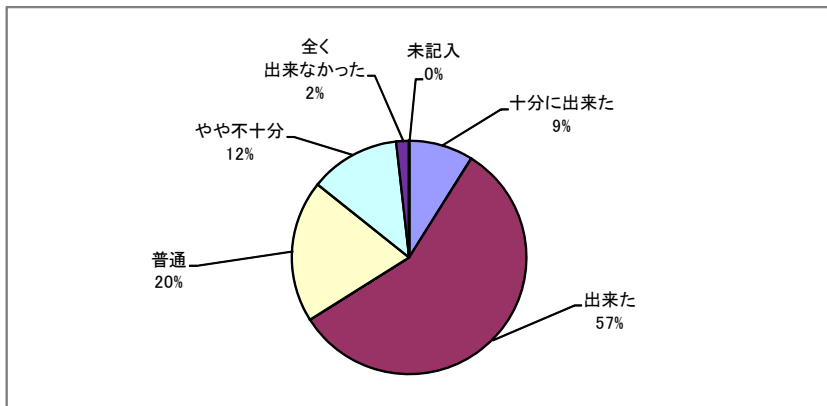


評価	具体的理由<一部抜粋>
大変満足	初めての人達と楽しくできた。 普通に学校に来ているだけではできない経験ができた。 プレゼンの能力がついた。 普通の授業では出来ない事が出来たし、自分を考えさせられた。 班が仲良かったし、アンケート調査も充実していた。
普通	アンケートと貴重な体験をさせてくれた。 ちょっと積極的になった。 4回生にインタビューできたこと。 とても充実した半年を過ごせました。先生もまわりの人も良い人たちばかりでした。 プレゼンテーション能力や発言についての力が身についた。 濃い内容(プレゼン・チームワーク)の授業が楽しかった。 普段の授業とは違う感覚で取組めた。 通常授業ではできない経験ができた。色々な考えを持った意識の高い仲間に出会えた。 コミュニケーション能力が上がったと思う。 グループ活動でグループの人と仲良くなれたから。 仲間との活動(協力)の仕方が分かった。 グループで一つの目標に向けて協力できた。 グループ以外で接点が少なくて友達を作る範囲に限られた。 プレゼンテーション以外のことも、もっと取組みたかったです。 プレゼン等の能力は付いたが、交友関係を広げるチャンスはあまりなかったので3にしました。 思っていたより厳しい授業ではなかった。(雰囲気、先生) まだそこまで成長を感じない。
やや不満	グループでの課題があり、仲良くなれたのが良かった。 時間が足りずアンケート項目などあらかじめ決められていたの。
非常に不満	回答者なし

2. 課題に対する自らの取組みについて(自己評価)

十分に出来た	出来た	普通	やや不十分	全く出来なかった	未記入	総計
5	32	11	7	1	0	56

単位:人

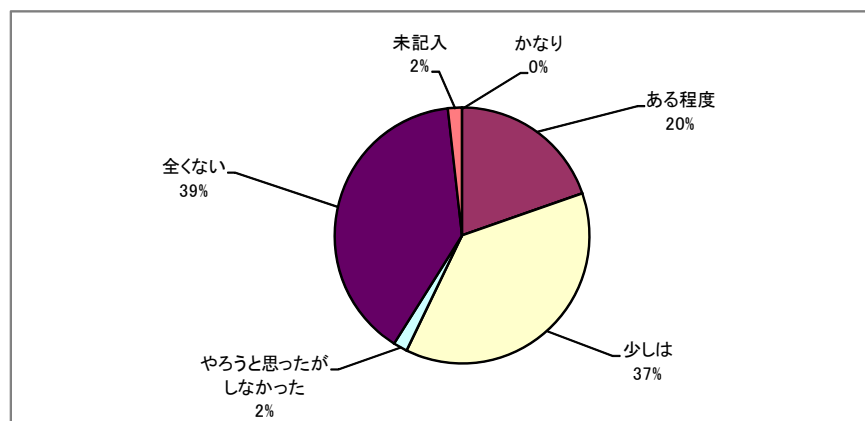


評価	具体的理由<一部抜粋>
十分に出来た	よく働いたと思います。
	チーム内で協力・分担して取組めた。
	賞こそは貰えなかったものの最終報告会で達成感を得たから。
	はじめの方に比べて、かなりやる事に対して積極的になった。
	チームで協力してできた。
出来た	グループであるのに割りと忙しくて自発的に行動できたと思う。
	今回の発表会に向けて、一生懸命に取り組んだと思う。
	プレゼン報告書の作成が出来た。
	インタビューという活動ができたこと。
	授業中以外の取組みもできた。
	チームみんなでがんばろうと努力しました。
	自分に課せられたものはできた。
	自分の意見を考えて発言できた。
	積極的に取り組んだが、一部分任せっきりにしたところがあるので反省している。
	冬休みを上手く使えなかったところだけが残念。
	リーダーを受け、チームを動かした。
	積極的に考え、計画的に行動するようになった。
普通	全般的に遅刻が多く、チームに迷惑をかけたが、最終発表が無事成功したので良かった。
	準備が不十分だった。みんなで集まる時間があまりとれなかった。
	インタビューやパワーポイント作成が出来た。
やや不十分	前半が全く参加出来ず、チームに迷惑をかけました。その分、後半で頑張りました。
	授業以外のときの活動に参加できなかった。
	グループの人らと時間あわず、少し頼ってしまった。
全く出来なかった	記入なし

3. このプログラムを受講してみて、これまで履修した科目で役に立った科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったが しなかった	全くない	未記入	総計
0	11	21	1	22	1	56

単位:人

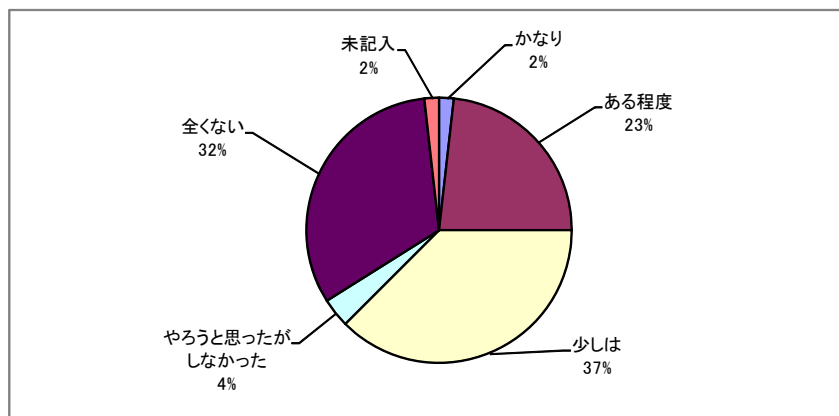


評価	役に立った科目	具体的理由<一部抜粋>
かなり	回答者なし	
ある程度 役に立った	外書セミナー	プレゼンテーションの進め方。
	初級パソコン	パワーポイント作成時に役立った。
	キャリアReデザイン I	他の人と仲良くなれることが出来た。
	ボランティア入門	パワーポイントを作って発表があったから。
	インテンス	自分の意見を表に出せるようになった。
	アンケート調査	多くの人と接した。
	演習・ゼミ他	少人数でのコミュニケーションが出来た。 自分の意見がしっかりと相手に伝えることができた。
少しは 役に立った	キャリアデザイン 基礎	内容が少し似ていたから。 チーム活動や発表等、近しい活動内容だった。
	インテンスA、B	英語でプレゼンテーションをしたので。
		パワーポイントを使うプレゼンの練習になった。 積極的に発表するようになりました。
	オール	積極的に話した。
	世界の中の日本語	口頭発表でしっかりと話せることができた。
	自己発見と 大学生活	この授業を受けるきっかけになった。 初対面の人とグループワークをするということに少しはなれられていた。
	演習・ゼミ他	人前で発表する力が少しついた気がする。
やろうと思ったが しなかった	記入なし	
全くない	記入なし	O/OCF・PBLのような講義を受講したことがないから。
		このプログラムを生かせるような科目をとりませんでした。
		プレゼンなどを行う授業をとっていない。
		このプログラムと関連している科目を取っていなかった。(授業への活かし方はまだ分からない)
		全く、今までにないタイプの授業がこれだったので。

4. このプログラムを受講したことがきっかけになって、今後積極的に履修しようと思う科目はありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	全くない	未記入	総計
1	13	21	2	18	1	56

単位:人

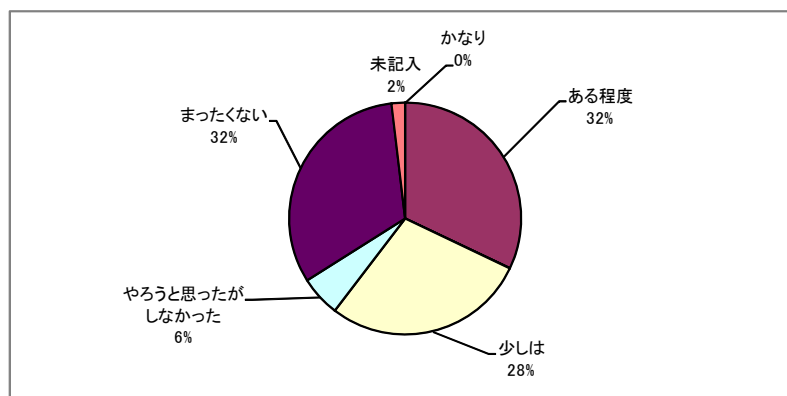


評価	履修しようと思う科目	具体的理由<一部抜粋>
かなり	キャリア系の授業、ゼミ	特にゼミではここでの経験が役に立つ気がする。
ある程度	専門科目	文化学部って何してるん？と聞かれることが多かったのもっと専門知識をつけたいと思った。
	パソコン技術を得られる授業	既にPPTもエクセルもワードも出来るけど、もっと上を目指したいから。
	O/CF・PBL2	大学生活について語れるものが欲しいから。
	キャリア系の科目	自分のためになる。
		今回、やってみて良かったと思うので、もっと就活や社会に出てからのために取りたい。
	マーケティング	流行に敏感になりたい。
	インターンシップ	少し興味がでてきたから。
	演習・ゼミ他	自分の意見を発表したい。
	記入なし	今のところ、科目などはわからないですが、ゼミの発表の時などに役に立つと思います。
少しは	経済系	専門の勉強をすることがプラスになることが分かったため。
	キャリアデザイン関係	自分が考えていることをより表現したいし、うまく伝えたい。
	O/OCF・PBL/PBL	これからどう自分が成長していけるか楽しみだから。
	何か討論やグループワークできるもの	ここで得た能力を活かしたい。
	演習・ゼミ他	このプログラムとゼミで並列すればすごいと思うから。
	記入なし	科目名はわからないが、自分が主体になって発言できるような授業を取りたくなった。
		積極的に人の話を聞くようにしたい。
やろうと思ったがしなかった	記入なし	履修できる科目を知らないの、きっかけになるものがあるかわからないから。
全くない		このプログラムを活かせる科目をまだ知らないから。
		自身でやりたいことを既に選んでいるので、これ以上というには当授業のみでは無い。
		この科目をがんばろうとおもったから。
		この授業を学内で活かすのは難しいと思うから。

5. このプログラムを受講したことがきっかけになって、授業科目以外で積極的に取組んだものはありますか

かなり	ある程度	少しは	やろうと思ったがしなかった	まったくない	未記入	総計
0	17	15	3	17	1	53

単位:人



評価	授業科目以外で取組んだもの	具体的理由＜一部抜粋＞
かなり取組んだ	回答者なし	
ある程度取組んだ	サークル	ピアサポートに入りました。
	友人との交流	同じグループになったから。
	パソコンのスキルアップ、敬語の勉強	集計やパワーポイント作成をスムーズに行いたかったから。礼儀を考えるようになったから。
	日々の生活	月曜日の朝に起きれるようになりました。
	協調性を大切にしました	チームワークから学んだ協調性を普段の生活で取入れたら、もっと物事がスムーズにいくのではないかなと思ったから。
	グループワーク	授業外でも積極的に集まってプレゼンに向けての準備をする必要があったから。
	社会人との交流会に参加した。	社会とはどんなものか少しでも知りたかったから。
	働きかけることを嫌にならなくなった。	みんなで協力する大切さを学んだため。
	アルバイト	あまり緊張しなくなったと思う。
		社会人基礎力を意識しながら働くようになった。
		社会人基礎力は、バイト(接客業)にも適応されると思うので意識して行動することができた。
	日商簿記2級講座	資格が欲しかった。
少しは取組んだ	今後の自分について、マインドマップを作った。10年後の。	記入なし
	記入なし	春と比べて授業中のノートをとる時、先生の話すことを中心にメモをとったり、頑張って意欲的に行えた。
	企業などを調べる事	これからインターンシップなどに参加すると考えると、どの企業がどのような事しているのか、どのような企業があるのかなど知っておいた方がインターンシップ先を決める時に役立ちそうだったから。
	レポート	計画を立てて多少取組めるようになった気がする。
	アンケートをとること	個人にノルマがあったため
	セルフコントロール力	周りに流されないようにするため。
	社会人交流セミナー	手をあげたら選ばれた。
	アルバイト	2年続けていたバイトをやめて新しいバイトをすることにした。コミュニケーション能力をUPさせるため。自ら進んで仕事をするようになった。
やろうと思ったがしなかった	記入なし	就活に向けて努力しようと思った。 現状はまだ無し。時間・金銭等、意外と考える事が多かったことに起因
	記入なし	授業でいっぱいいっぱいでした。 どんなことがあるか探しています。 まだ時間が少なく、動き出すことはできていない。
まったくない	記入なし	

6. 説明会から最終報告会まで全プログラムについて意見や感想

『1クラス』

- ・授業中のアイスブレイクをしたのが良かったと思う。僕は人前に出るのはいやだったけど、毎回前に出てやった事は成長につながったと思う。また、朝一限からの授業は大変だったけど継続の力がついた。報告会は、自分の中で一番良かったと思うプログラムでした。
- ・朝一で大変だったが、みんなやる気があったので楽しい刺激をもらいながら受講できた。しかし、グループ作業ばかりで他のクラスメイトと交流する機会がなかったので、もう少し全体で何かしたいと思った。
- ・私はこのO/OCF・PBLの講義は知りませんでした。私は友達があつたまO/OCF・PBLの説明会に参加すると聞き、話を聞いてみると内容が面白そうだったのでこのO/OCF・PBLの説明会に参加しました。説明会では社会人になると役に立つ社会人基礎力が身に付けれると聞き、私は将来に役に立つのならやるかなと曖昧な気持ちでしたがこの講義を受けようと思いました。初めの合宿で、まだ私が会ったことのなかった人と交流が出来、本当に楽しい始まりでした。ですが、報告会という私が今までやったことのない困難な課題を与えられ、私は嫌々な気持ちでやっていました。ですが、やっていく内に将来のためにやっている、仲間と一緒に作っていると考えるとだんだんやりがいのある課題をやっているのだと考えると良い経験をしているのだと感じるようになってきました。今日の報告会を終えて、本当に今まで頑張ってきた良かったと心から思いました。
- ・プレゼンの作成から発表、審査と、かなりきっちりした授業でよかった。
- ・思っていたよりも、やらないといけないことが多く忙しかった。
- ・最初は人見知りが激しかったけど、このプログラムを受講して多少は変わったと思いました。
- ・協力したり、自分から何かに取組むという事を覚えました。
- ・特に無いです。
- ・O/OCF・PBL受講生の親睦会をもっと開いていいと思う。
- ・1回生からフィールドワークをしてみたかった。
- ・思ったより楽しい科目で、月曜一限という一番行きにくい授業だが出席できました。
- ・すごくしんどかったけど、チームの人たちや、それ以外でもとても楽しくできたのですごくよい経験になったと思いました。
- ・私はもともと知り合いがいるわけでもなかったのも、とても不安がありましたが、先生もまわりの人たちもとても良い人ばかりで、本当に楽しく過ごすことが出来ました。みんなと協力して、一つのことに取組むなかで、自分も同じ班のみんなもとても成長できたことと思います。最終の報告会は直前でとても緊張しましたが、先生からの質問にもちゃんと答えられる事が出来たと思うし、プレゼンを完成させるまでとても大変でしたが、今はとてもこのプログラムに参加して良かったと思います。
- ・はじめ「アンケートをとってプレゼンをしてもらいます。」といきなり言われて、このアンケートで何をgetしたいのか全く分からなかった。(それを考えるのもプログラムの一部?)去年までと違いPBLの人数が増えたので、あまりやる気の見えないような人も授業を取ってしまっていたのではないかなと思う。でもこの授業を通して自分の成長につながったと実感できたし、他の学部の友だちも出来たから本当によかったと思う。
- ・1. 全体的にチーム活動することが多かったのも個人で活動できることも追加したほうがよい。2. 具体的な方法についてあまり言及していない点に気になる。3. アンケートも自由にしたいほうがより個性が出てよいと思う。
- ・1クラスと2クラスの交流が普段の授業ではほぼなかったので、もう少しそういった機会があるととても楽しかったかなと思う。クラス内でも、“今週楽しかったこと”を話すときとかは、チーム内ではなくてクラス全体でやったら、より仲良くなれるし、コミュニケーションがとりやすくなると思う。でも本当に楽しく、月曜一限も苦にならなかったです。
- ・協力的なチームだったので、活動しやすかった。授業以外でチームで集まることは難しいので授業内でもう少し報告会への準備をしたかった。
- ・みんなと協力して何かをやり遂げることが楽しいとわかった。やはり、自ら動いていかないと何も出来ないことがわかった。大学生活を充実させるのは、自ら行動して積極的にやっていかないといけないとつくづく感じた。
- ・他人と意見を交換したり、チームでプレゼンテーションに向けて取組んだことは、とてもよい経験になりました。改善してほしい点は、授業時間外でやらなければならないことが少し多いと感じました。私はクラブを毎日しているので、特にそのように思いました。また、授業が祝日で休みになって、前の授業とすごく時間が空いてしまうのが気になりました。
- ・チームワークの難しさ、意見の違いなどがあつたときに、どのようにしたら一番いいのかをチームで考えたりして問題解決能力が身に付いたと感じます。人前でプレゼンテーションをする機会はありませんでしたのでとてもいい経験になったと思います。
- ・最終報告会の時期がテスト前なので、大変苦労しました。適性検査はテスト明けにしたいと思っていました。それから、授業中にもっと学生同士が交流出来る機会が欲しかったです。チームワークもいいと思いますが、個人で活動し、自分から友達を作っていくチャンスも必要なのではと感じました。色々書きましたが、この授業をとって最終的には良かったと思います。
- ・面接の時にかなりつらいプログラムと聞いていたが、私はそこまでつらいとは思いませんでした。でも、みんなと協力してやらなければ出来なかったのもチームみんなが仲良くなれたと思います。

『2クラス』

- ・時間がありませんでした。アンケート内容なども、自分達に任せてほしかった。
- ・月曜日一限という時間帯がしんどかったですけど、楽しかったから毎日来れました。授業内で自分を見直すことが出来たり、深く考えられる事が出来たので、すごく良かったです。
- ・クラスで1つの内容について話し合ってきたことはとても良かったです。他クラスとのふれあいがありませんでしたので、もう少し話をしてみたかった。
- ・ひとつひとつの授業が面白かったし、楽しかったが、時間が足りないように感じた。
- ・プレゼンの内容を自分達で決められた方が良かった(あみだくじでなく)。内容によって評価に偏りが出ると言われた為。時間配分。感想:グループワークを中心に活動できて、自分達の社会人基礎力を伸ばす、とても良い環境だったと思うし、成長を実感できた。ありがとうございました。
- ・今振り返るとあつという間の秋学期だった。当初は月曜1限で不安があったが、授業が始まると欠席・遅刻ゼロだった。これはグループに恵まれていたこともあったが、何よりこの授業を楽しみ感じたし、すごく成長できている自分を実感できた。なので、2回生からも積極的に取組んでいきたいと思う。
- ・最初の合宿で友達ができただけで少しは気が楽になってよかったし、楽しかった。2年になってもPBLを続けようと思う。班で何かをすることが今までありませんでしたのでPBLはいい経験になった。
- ・最初に2、3年生の発表を見てからやり始めたのが良かった。月曜の1限という過酷な日程だったが、何とか遅刻しないように頑張ったのが良かった。
- ・普段の授業では取組むことのできない経験をたくさんいろいろな形ですることが出来て、本当に自分のためになり良かったと思いました。2回生になっても続けて受講していくことが大切だろうと思います。
- ・チームで協力して頑張っていくことができた。最後の報告会も何とかやっていけたと思う。
- ・2年生になったら、もっとチームで自分の意見を出して、みんなの前でも積極的にしゃべれるようにになりたい。
- ・PBLの授業は普通の授業とは違いとても新鮮でした。授業が1限目ということもあって遅刻が多くなってしまったのは反省すべき点だと思っています。これを通して協力すること、計画力の重要性を改めて感じました。さらに責任感をもって仕事をしなければならないということが一番学んだことです。これは将来自分が仕事をする上で本当に大事なことでありと思うのでしっかり責任感をもってやりたいと思います。あと、積極的に以前よりは発言できるようになりましたが、もう少しうまく相手を動かせるような意見を述べられるようになりたいと思います。
- ・グループ活動をすることで、他の人に迷惑をかけないようにしなければならなかったことで責任感がありました。また、人の意見を取り入れて、一つの物をよりよく仕上げることも学びました。月曜1限でしんどかったですが、グループのメンバーと仲良くなれたし、担任の先生がいない大学で、吉中先生が名前を覚えてくれたり、話しかけてくれたりしたので嬉しかったです。他の科目との兼ね合いで、この科目が役に立ったかは分かりませんが、人と協力することの大切さを実感でき、プレゼンテーションも練習できて良かったです。
- ・このプログラムを取ってとても良かったと思っています。チームでプロジェクトに取り組む方法を学ぶことができました。積極性もかなりついたと思います。プレゼンの準備の時間の授業が少なすぎたのと、本番と同じ環境でリハーサルをしたかったです。ありがとうございました。
- ・企業インターンシップに入る前段階としては丁寧に作られたものだと考える。来学年の活動に期待。
- ・今回初めてO/OCF-PBLを終えて、自分の意見をしっかりと主張できる発信力、相手の意見を聞き取ったり、グループでまとまって一緒に議論したりして、協調性が身についたと思います。また、改善という点では全体的に班の繋がりが少なく、もっとクラスだけでもいいから色々繋がりをもちたかったです。
- ・予定などがしっかりとっていて自分も計画的にすることができたので良かったです。
- ・このプログラムを通して協力することの大切さを学び、また個人的には、より積極的に物事に取り組めるようになったと感じるのでとても感謝しています。
- ・合宿でも他学部には様々な友人が増え、授業でもいいチームメイトと最後までやれてとても楽しかった。団結力がついたと思うし、班員も最初は控えめの人でもいたけど今ではみんなが自由にしゃべれる感じがすごくいい雰囲気です。この授業をとって良かったです。
- ・内容はとてもハードだったけど、様々なことが身に付いた。成長した部分や反省点が明確になり、今後の学生生活を過ごすための目標ができた。
- ・最初、私はこの授業をどうしようか、とても悩んでいたけど、とってよかったと思う。大変なこともあったけど何とか乗り越えられたし、新しく友達もできた。何より、皆の前でパワーポイントを使って発表することに楽しさを感じられたことが良かった。少し自信にも繋がった。反省点としては、グループ内にとても頑張ってくれる人がいたので、多くを任せすぎてしまったことだと思う。彼ができる人で頑張ってくれたことは大変助かったのだけど、あまりにも1人でやろうとするので困った。私も、もっと協力したかったのに、全て1人でやってしまうので、もどかしい思いをしたこともあった。積極的にすることは大切なことだけど、自分ばかりがやろうとするのは良くないのだと気付くことができた。全然ちがうタイプの人たちともグループを組んで、その中で意見が合わないこともあるけど、皆で協力しながら1つのことを成し遂げていくということは、とても貴重な体験だと思う。そういう面も含めてためになった。
- ・1年次は体験で、1→2年次に上がる際に辞められるようにしたら良いと思う。(この授業が自分に合わないと思う人もいると思うので)・4単位科目にしてほしい。・アンケート内容を自由に決めさせてほしかった。(既定の内容では分析のしようがない項目があった。)・エクセルやパワーポイントの使い方はもっとしっかり教えるべきだと思った。・担当教授が授業を見に来ていいと思った。

(2) 資料3

資料1

●社会人基礎力レベル課題基表

3つ の 力	12の要素	定義	通常の状況で効果的に発揮できた (得意にできた) (困難な状況でも発揮できた (とても難しかったが、何とかできた))			発揮できた例(※)
			レベル1	レベル2	レベル3	
前に 踏み 出す 力 A	主体性	物事に 進んで取り組む力				自分かやがや、そのことに向かい、自発的に取り組むことができる。 自分の進め方を調整しながら進めることができる。 自分の進め方を調整しながら進めることができる。
	働きかけ力	他人に働きかけ 巻き込む力				相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、必要性)を伝えることができる。 相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、必要性)を伝えることができる。 相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、必要性)を伝えることができる。
	実行力	目的を設定し 増強に行動する力				小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向けて、自ら積極的に取り組むことができる。 小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向けて、自ら積極的に取り組むことができる。 小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向けて、自ら積極的に取り組むことができる。
考え 抜く 力 I	課題発見力	現状を分析し 明らかにする力				課題のイメージを明確にして、その実現のために課題設定をすすめることができる。 課題のイメージを明確にして、その実現のために課題設定をすすめることができる。 課題のイメージを明確にして、その実現のために課題設定をすすめることができる。
	計画力	課題の解決に向けた 準備する力				作業のフローを明らかにし、優先順位を付け、実現性の高い計画を立てられる。 作業のフローを明らかにし、優先順位を付け、実現性の高い計画を立てられる。 作業のフローを明らかにし、優先順位を付け、実現性の高い計画を立てられる。
	創造力	新しい価値を 生み出す力				従来のものの考え方、技術等を組み合わせて、新しいものを生み出すことができる。 従来のものの考え方、技術等を組み合わせて、新しいものを生み出すことができる。 従来のものの考え方、技術等を組み合わせて、新しいものを生み出すことができる。
予 丁 人 で 働く 力 W	発信力	自分の意見を 分かりやすく伝える力				相手を説理的なデータ等を用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる。 相手を説理的なデータ等を用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる。 相手を説理的なデータ等を用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる。
	傾聴力	相手の意見を 丁寧に聴く力				相手の意見や疑問等を伺いながら、相手の意見を正確に理解することができる。 相手の意見や疑問等を伺いながら、相手の意見を正確に理解することができる。 相手の意見や疑問等を伺いながら、相手の意見を正確に理解することができる。
	柔軟性	意図の強いや 立場の違いを 理解する力				自分の意見を述べながら、相手の良い意見も受け入れて進めることができる。 自分の意見を述べながら、相手の良い意見も受け入れて進めることができる。 自分の意見を述べながら、相手の良い意見も受け入れて進めることができる。
	状況把握力	自分と周囲の 人々や物事との 関係性を理解する力				周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。 周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。 周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。
	規律性	社会のルールや 人との約束を守る力				相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。
ス ト レ ス に 対 応 する 力	ストレスの発生源に 対応する力					ストレスの原因を察知して、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 ストレスの原因を察知して、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 ストレスの原因を察知して、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。

資料2-①

_____年____月____日
ゴール・セッティング シート

学部_____ 学年____ 学生証番号_____ 氏名_____

この時間の目標

〔この時間に特に意識しようと思う能力要素に○印（裏面の表、複数可）を付けて下さい。〕

この時間に得たこと

〔この時間を振り返り、各能力要素について5点満点で裏面の表に点数をつけて下さい。〕

資料 2 - ②

2. 本日の授業を振り返り、各項目について5点満点で点数をつけてください。(自己評価)

分 類	能 力 要 素	内 容	この時間中に 特に意識しよう と思うもの○印	事後評価 5点満点
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。		／5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。		／5
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけでなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。		／5
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。		／5
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。		／5
	創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。		／5
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。		／5
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。		／5
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。		／5
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。		／5
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例) 個々の職業倫理に照らし、自らの発言や行動を適切に律する。		／5
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例) ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。		／5
			合 計	／60

資料3

H21.3.19

社会人基礎力育成のための

評価システムと実施日程・手順

◇育成目標レベルと評価基準

◇評価方法

◇実施日程・手順

京都産業大学キャリア教育研究開発センター

社会人基礎力レベル評価基準表

3つの力	12の要素	定 義	発揮できなかった (どうしてもできなかった)	通常の状況では発揮できた (何とかできた)	通常の状況で効果的に発揮できた (見事にできた) 困難な状況でも発揮できた (とても難しかったが、何とかできた)
			レベル1	レベル2	レベル3
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる		
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている		
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる		
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている		
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる		
	創造力	新しい価値を生み出す力	複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している		
チームで働く力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている		
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる		
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる		
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる		
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる		
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている		

※各能力要素を発揮できた例は、この内容に限るものではない。

資料 3 つづき

◇評価方法

		自己評価	他 者 評 価	
			課題提供 企業担当者	担当教員
事前	事前評価シート	*		モニタリング
中間	中間評価シート	*	面談	モニタリング
事後(1)	事後評価シート(1)	*	面談	モニタリング
事後(2)	事後評価シート(2)	*		モニタリング
ゴールセッティング (毎時間)	ゴールセッティングシート	*		コメントを付して 次週返却
活動記録 (期間中2回)	活動記録シート	*		コメントを付して 次週返却
総括	プロGRESSシート			各評価シート から転載

注：課題提供企業担当者は面談による評価を予定していたが、事情によりモニタリングに変更した。

『記載要領』

【事前】評価シート

□ …学生本人記入欄

■ …教員・講師記入欄

氏名		学籍番号		記入日	平成	年	月	日
所属	学部・研究科	学科		専攻	学年			年
科目名				担当教員				

プロジェクトの活動内容・目標		チームで共通の内容をあらかじめ記入しておく →プロGRESSシートへ転記可能	
参加に際して	将来の目標	(今まで学んできたことや身に付いた能力・知識、また反省点や課題について)	
	(前提科目がある場合)これまでの取り組みの振り返り		
	このプロジェクトを希望した理由	(例：チームで1つの問題に取り組む経験を通して、実際の企業で行う商品開発の手順を学びたい これからの社会になくてはならない最先端技術を研究し、将来、企業で〇〇の開発を行いたい)	
	プロジェクトを通して向上させたい社会人基礎力の能力	(例：働きかけ力、計画力、発信力)	
	プロジェクトを通して身に付けたい専門知識、スキル	(例：テーマとする業界や企業についての知識、統計や調査手法の知識、ホームページ作成のためのプログラミング言語の知識、材料力学の応用知識)	
プロジェクトで出したい成果のイメージ	(例：地域ブランドとして定着するぐらいの商品を企画したい、 〇〇のPRを■町民も一体となって行えるようなウェブサイトを開発したい など)		
教員・講師への連絡・相談		(特になければ、空欄でも構いません)	

自己分析	社会人基礎力の分類		現在のレベル	評価の根拠(具体的行動事実)
	能力要素			
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	①・2・3		(例：2年生の時に行ったゼミで、コンビニ利用者にアンケートを行ったが、アンケートの質問項目の検討や結果の分析作業等において、積極的なメンバーがたぐさんいたので、自分から何か提案したり、調べたりせず、ほぼ他のメンバーの指示通りに動くだけだった。)
	働きかけ力	①・2・3		
考え抜く力 (シンキング)	実行力	1・②・3		以下の基準をもとに、レベルをチェック レベル1：発揮できなかった (どうしてもできなかった) レベル2：通常の状況では発揮できた (何とかできた) レベル3：通常の状況で効果的に発揮できた (発案にできた) 困難な状況でも発揮できた (とても難しかったが、何とかできた)
	課題発見力	1・2・3		
チームで働く力 (チームワーク)	計画力	1・2・3		
	創造力	1・2・3		
	発信力	1・2・3		
	傾聴力	1・2・3		
	柔軟性	1・2・3		
	状況把握力	1・2・3		
	規律性	1・2・3		
	ストレスコントロール力	1・2・3		

教員・講師からの 講評・アドバイス		教員・講師名
----------------------	--	--------

資料3 つづき

『記載要領』									
中間評価シート									
事前～事中(中間)までの評価									
氏名	学籍番号	記入日	平成 年 月 日	科目	担当教員				
所属	学部・研究科	学科	専攻	学年	年	協力企業	外部評価者		
活動内容 (進捗状況を簡潔書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)									
社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もつと努力や工夫が必要と感じたか)	教員のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	外部評価者のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実)	教員と外部評価者の総合評価	今後の行動目標
前に踏み出す力 (アクション)	主体性								(例: 他人の協力が必要な場面で、断られることを恐れず、自分から積極的に働きかけていきたい。)
	働きかけ力								
考える力 (シンキング)	実践力								他者による評価レベルとコメントも踏まえ、学生が今後の行動目標を書く
	課題発見力								
チームで働く力 (チームワーク)	計画力								教員と外部評価者の評価レベルをもとに、再度、教員が総合的に判断し、評価結果を記入→プログレスシートへ転記可能
	創造力								
	発信力								
	傾聴力								
	柔軟性								
状況把握力									
規律性									
ストレスコントロール力									

実際に活用した(学んだ)知識・スキル等	気づいたこと	今後の行動計画
(例: データについて図解分析を行った) 事後評価シートの「活用した(学んだ)専門知識やスキル等」へ記入する際の参考とする。	(例: 図解分析では説明できないことがあることに気づいた) 今回活用した知識等の必要性や、自分が習得してきた知識等ではまだ不足していたことなど、気づいたことを記入する	(例: 課題解決作業と平行して、教科書で重回帰分析を総合的に学ぶ) 今後必要な知識等の習得のために、具体的にどのように取り組むかを記入する。

現在の活動の達成度から見た今後の行動目標	(例: 商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい、企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい 等)
教員・講師への連絡・相談	(特になければ空欄でも構いません)
教員・講師からの講評・アドバイス	教員・講師名

◇授業日程・手順(1)

O/OCF-PBL2・3プログラム実施日程

授業日	時間	形態	講義・実習内容 (予定)
第1課	4月16日	木 1	全体 適性検査1回目 CRATTI PC-TAOK 合計90分 (9:00～10:30)
第2課		3	ファーストミーティング、オリエンテーション、事前評価
第3課	4月18日	土 4	合宿 チームビルディング研修1
第4課		5	チームビルディング研修2
第5課	4月19日	日 1	合宿 チームビルディング研修3
第6課		2	チームビルディング研修4
第7課	4月23日	木 1	チーム別 企業からの課題説明
第8課	4月30日	木 1	チーム別 チーム別授業1
第9課	5月7日	木 1	全体/チーム別 適性検査1回目フィードバックとチーム別授業2 活動記録シート提出
第10課	5月14日	木 1	チーム別 チーム別授業3
第11課	5月21日	木 1	チーム別 チーム別授業4
第12課	5月28日	木 1	チーム別 チーム別授業5
第13課	6月4日	木 1	チーム別 チーム別授業6、中間(自己)評価
第14課	6月11日	木 1	チーム別 中間報告(企業担当若来学)、中間(他者)評価
第15課	6月18日	木 1	チーム別 チーム別授業7、活動記録シート提出
第16課	6月25日	木 1	全体 チーム別授業8
第17課	7月2日	木 1	チーム別 チーム別授業9
第18課	7月9日	木 1	全体 全体授業(ビジネス・マナー プレゼン練習)
第19課	7月11日	土 1	チーム別 チーム別授業10
第20課	7月16日	木 1	チーム別 チーム別授業11
課題解決実習フィールドワーク(現地調査)・アンケート調査・聞き取り調査(インタビュー)・資料調査等 実外調査実習			
第21課		1	チーム別 チーム別授業12 報告会(各チーム内の報告と相互評価)
第22課	9月26日	土 2	全体 最終報告会(企業担当若来学)、事後(他者)評価(1)
第23課		3	全体 適性検査2回目 PO-TAOK CRATTI 合計2時間 事後(自己)評価
	10月中旬	全体	適性検査2回目のフィードバックと就職セミナー
グランプリ予選	11月4日	水 3	グランプリ西日本予選出場学内選考会
グランプリ予選	12月15日	火	経済産業省社会人基礎力育成グランプリ西日本予選 大阪・グランキューブ大阪
	1月23日	土 1-2	O/OCF-PBL1 報告会
	2月初旬	スタジオ	ラジオ放送による報告収録
公開報告会	2月20日	土	大阪商工会議所 成果報告
グランプリ本戦	3月5日	金	経済産業省社会人基礎力育成グランプリ決戦 東京・よみうりホール

O/OCF-PBL1プログラム実施日程

授業日	時間	形態	講義・実習内容 (予定)
第1課		1	ファーストミーティング、オリエンテーション・事前評価
第2課	9月26日	土 2	全体 最終報告会参加
第3課		3	適性検査1回目 CRATTI PC-TAOK 合計90分
第4課		3	チームビルディング研修1
第5課	10月3日	土 4	チームビルディング研修2
第6課		5	チームビルディング研修3
第7課	10月4日	日 1	課題(キヤリア・インタビュー)説明
第8課		2	予*授業1
第9課	10月12日	月 1	全体/クラス別 適性検査1回目フィードバックと予*授業2 活動記録シート提出
第10課	10月19日	月 1	クラス別 予*授業3
第11課	10月26日	月 1	クラス別 予*授業4
グランプリ予選	11月4日	水 3	グランプリ西日本予選出場学内選考会
第12課	11月9日	月 1	クラス別 予*授業5
第13課	11月16日	月 1	クラス別 予*授業6 中間(自己)評価
第14課	11月30日	月 1	全体 中間報告
第15課	12月7日	月 1	クラス別 予*授業7 活動記録シート提出
第16課	12月14日	月 1	クラス別 予*授業8
グランプリ予選	12月15日	火	経済産業省社会人基礎力育成グランプリ西日本予選 大阪・グランキューブ大阪
第17課	12月21日	月 1	クラス別 予*授業9
※11月～12月 フィールドワーク(現地調査)・アンケート調査・聞き取り調査(インタビュー)実施			
第18課	1月18日	月 1	クラス別 予*授業10
第19課		1	クラス別 予*授業11 報告会(各グループ内の報告と相互評価)
第20課	1月23日	土 2	全体 最終報告会
第21課		3	全体 適性検査2回目 PC-TAOK CRATTI、事後(自己)評価(PBL1)
	2月中旬	全体	事後(自己)評価(2)・適性検査2回目のフィードバックと活用セミナー
公開報告会	2月20日	土	大阪商工会議所 成果報告
グランプリ本戦	3月5日	金	経済産業省社会人基礎力育成グランプリ決戦 東京・よみうりホール

資料 3 つづき

『記載要領』

…学生本人記入欄

…教員記入欄

…外部評価者記入欄

事後評価シート①

事中(中間)～終了時までの評価

氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員
所属	学部・研究科	学科	専攻	学年	年	協力企業	外部評価者	
活動内容 (進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)								

社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫することにより発揮(しよう)したと考える、もった努力や工夫が効果と感じたら)	教員のレベル評価	評価の根拠 (具体的な行動事実)	外部評価者のレベル評価	評価の根拠 (具体的な行動事実)	教員と外部評価者の総合評価	今後の行動目標
前に踏み出す力 (アクション)	主体性				学生の特徴をよく表すコメントは、プログレスシートへ転記可能		学生の特徴をよく表すコメントは、プログレスシートへ転記可能		他者による評価レベルとコメントも踏まえ、学生がプロジェクト終了後の目標を書く
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力		できれば、事後評価までに「活動記録シート」に記入してきた行動事実を引用して書くことが望ましい。						
	計画力								
	創造力								
チームで働く力 (チームワーク)	発信力						教員と外部評価者の評価レベルをもとに、再度、教員が総合的に判断し、評価結果を記入 →プログレスシートへの転記可能		
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
	ストレスコントロール力								

その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 (例:データについて回帰分析を行った)	気づいたこと (例:回帰分析では説明できないことがあることに気が付いた)	今後の行動計画 (例:課題解決作業と平行して、教科書で重回帰分析を学ぶ)
	次ページの「活用した(学んだ)専門知識やスキル等」へ記入する際の参考とする	今回活用した知識等の必要性や、自分が習得してきた知識等ではまだまだ不足していたことなど、気づいたことを記入する	今後必要な知識等の習得のために、具体的にどのような取り組みかを記入する

現在の活動の達成度から見た今後の行動目標
 (例:商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい。企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい 等)

教員・講師への連絡・相談
 (特になければ空欄でも構いません)

『記載要領』

…学生本人記入欄

…教員記入欄

…教員・講師記入欄

【事後】評価シート②

プロジェクト活動全体の振り返り

分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルの推移を証明できる事実)		関連科目名	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性				プロジェクト全体を通して、自分自身の行動を振り返り、当初はできなかったことができるようになったことなど、自身の成長を具体的に行動事実で記載する。	活用した(学んだ)専門知識やスキル等		プロジェクト全体を通して学んだ専門知識・スキルを、中間・事後評価の「その他習得を目指す知識・スキル等」も参考にして、教員が記入する →プログレスシートへ転記可能
	働きかけ力							
	実行力							
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力				(例:プロジェクト前半では、議論の最中、自分が出した企画に対してチームメイトから反対の意見が出ると感情的になってしまい、他者の意見に聞く耳を持てなかった。しかし、中間評価で自身の柔軟性が弱いことを知り、他人の反対意見の良い部分を積極的に取り入れていこうと意識した結果、徐々に柔軟に受け入れられるようになり、チームメイトに指摘された自分の企画の短所を補うアイデアをチーム全員で考えた結果、自分一人ではとてもおもいつかないような企画にまとまり、学内の成果発表会でも大好評だった。)	(チームとしての)活動成果		チームとして共通の内容を記入 →プログレスシートへ転記可能
	計画力							
	創造力							
チームで働く力 (チームワーク)	発信力					プロジェクトでの役割・担当としての活動		教員が学生個人別に記入する →プログレスシートへ転記可能
	傾聴力							
	柔軟性							
	状況把握力							
	規律性							
	ストレスコントロール力							
教員・講師からの講評・アドバイス								教員・講師名

資料3 つづき

活動記録シート				…学生本人記入欄		…教員記入欄	
氏名		学籍番号		記入日	平成 年 月 日 ()		
所属	学部・研究科			学科・専攻	学年		年
活動期間	月 日 () ~ 月 日 () 第 週						
活動の内容							
分類	能力要素	発揮(しよう)した または 発揮できなかった 能力	評価の根拠 (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか等を具体的に記入)				
前に踏み出す力 (アクション)	主体性		記載要領 以下の基準で、評価する レベル1: 発揮できなかった(どうしてもできなかった) レベル2: 通常の状況では発揮できた(何とかできた) レベル3: 通常の状況で効果的に発揮できた(見事にできた) 困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた) 以下のような場面などを思い出し、そのような場面があれば、発揮できたかどうかを振り返ってください。 主体性…課題解決に向けて、自分から行動を起こすことができたか 働きかけ力…他人を巻き込むために働きかけなければならない場面 実行力…決めたことを最後までやり抜くことができたか 課題発見力…現状を分析して、何が問題かを見つけることをしたか 計画力…目標達成に向けて、計画を作成・確認・修正したか 創造力…課題解決のために新しいアイデアや解決策を提案できたか 発信力…自分の意見を他人に分かり易く話さなければならない場面 傾聴力…他人が話している内容を聞き取らなければならない場面 柔軟性…自分と他人の意見が食い違ってしまった場面 状況把握力…他人と協働するため、周囲の状況によく配慮して行動しなければならない場面 規律性…約束・ルール・マナーを気を付けなければならない場面 ストレスコントロール力…目標達成のために、ストレスを感じた場面 裏面に12の能力要素の説明をつけておく				
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力						
	計画力						
	創造力						
チームで働く力 (チームワーク)	発信力						
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
	ストレスコントロール力						
教員への連絡・質問・悩み・その他(問題点を含むチームの活動状況)							
担当教員からのコメント							

平成●●年度

社会人基礎力育成型科目

●●●●

プログレスシート

～あゆみと成長の記録～

学生証番号●●●●●●●●

学生氏名 ●● ●●

資料4-②

社会人基礎力に関する気づきと成長記録			
大学	学部・研究科	学科・専攻	氏名
学籍番号			
科目		担当教員	
プロジェクトの 活動内容、目標			
協力企業		外部評価者	

■自己評価の履歴

分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルを証明できる事実)
前 に 踏 み 出 す 力 (ア ク シ ョ ン)	主体性				
	働きかけ力				
	実行力				
考 え 抜 く 力 (シ ン キ ン グ)	課題発見力				
	計画力				
	創造力				
チ ー ム で 働 く 力 (チ ー ム ワ ー ク)	発信力				
	傾聴力				
	柔軟性				
	状況把握力				
	規律性				
	ストレスコントロール力				

資料 4－③

活用した (学んだ) 専門知識や スキル等	関連科目名	内容
(チームとしての) 活動成果		
プロジェクトでの役割 担当としての活動		

■他者(教員・外部評価者＜企業人等＞)評価の履歴

分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (各能力要素レベルを証明できる事実・評価の根拠)	
					事前・中間	中間・事後
(前に 踏み出す 力)	主体性				(記入者)	(記入者)
	働きかけ力					
	実行力					
(シン キング 力)	課題発見力				(記入者)	(記入者)
	計画力					
	創造力					
(チ ーム で 働 く 力)	発信力				(記入者)	(記入者)
	傾聴力					
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性					
	ストレスコントロール力					

資料4-④

◆「プログレスシート(あゆみと成長の記録)」について◆

「プログレスシート」は、学生が受講した社会人基礎力育成型科目の活動の中で、どのような行動や学習をしたのか、活動終了時にお知らせするものです。社会人基礎力の12の能力要素に照らした学生の強み・弱みの自己評価・他者評価、その成長の記録、プロジェクトでの役割やチームとしての成果などをまとめています。

学生の皆さんは、このシートをこれまでの活動の振り返りや、今後の更なる成長に向けて何を行うべきかを考える材料の一つとして、活用してください。また、企業の皆様には、学生への理解を深め、今後のキャリアパスを考える材料の一つとして、ぜひこのシートをご活用ください。

社会人基礎力とは	評価とは
社会人基礎力とは、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力として、経済産業省が定義した3つの分類、12の能力要素のことをいいます(下表参照)。	今回の活動の中で、学生が「いつ、どんな状況で、どのような努力や工夫することにより発揮したか」という行動事実を記録し、以下の基準に照らして評価を実施しております。 レベル1: 発揮できなかった(どうしてもできなかった) レベル2: 通常状況では発揮できた(何とかできた) レベル3: 通常状況で効果的に発揮できた(見事にできた)困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた)

分類	能力要素	定義	発揮できた例
(前に踏み出す力)	主体性	物事に進んで取り組む力	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れず、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる
(考える力)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力	複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
(チームで働く力)	発信力	自分の意見を分かりやすく伝える力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそう考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分ができること・他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取り組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている

資料 5

【事前】評価シート									
氏名			学籍番号		記入日	平成	年	月	日
所属	学部・研究科				学科・専攻	学年	年		
科目名					担当教員				
プロジェクトの活動内容・目標									
参加に際して	将来の目標								
	(前提科目がある場合) これまでの取組みの振り返り								
	このプロジェクトを希望した理由								
	プロジェクトを通して向上させたい社会人基礎力の能力								
	プロジェクトを通して身につけたい専門知識、スキル								
	プロジェクトで出したい成果のイメージ								
教員・講師への連絡・相談									
自己分析	社会人基礎力の分類	能力要素	現在のレベル	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮しようとしたと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか)					
	前に踏み出す力 (アクション)	主体性	1・2・3						
		働きかけ力	1・2・3						
		実行力	1・2・3						
	考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	1・2・3						
		計画力	1・2・3						
		創造力	1・2・3						
	チームで働く力 (チームワーク)	発信力	1・2・3						
		傾聴力	1・2・3						
		柔軟性	1・2・3						
		状況把握力	1・2・3						
		規律性	1・2・3						
ストレスコントロール力		1・2・3							
教員からの講評・アドバイス (※記入不要)					教員名				

資料 6

事前～事中(中間)までの評価									
中間評価シート									
氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員	
所属	学部・研究科								
	学科・専攻								
	協力企業								
活動内容									
(進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)									
社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努めましたか？どんな成果(向上)がありましたか？)	教員のレベル評価 (※記入不要)	評価の根拠 (具体的行動事実) (※記入不要)	外部評価者のレベル評価 (※記入不要)	評価の根拠 (具体的行動事実) (※記入不要)	教員と外部評価者の総合評価 (※記入不要)	今後の行動目標
前に踏み出す力 (アクション)	主体性								
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力								
	計画力								
	創造力								
チームで働く力 (チームワーク)	発信力								
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
ストレスコントロール力									
その他習得を目指す知識・スキル等	実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 (例:データについて回帰分析を行った)		気づいたこと (例:回帰分析では説明できないことがあることに気づいた)		今後の行動計画 (例:課題解決と並行して、教科書で重回帰分析を学ぶ)				
現在の活動の達成度から見た今後の行動目標	(例:商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい、企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい、等)								
教員への連絡・相談	(特になければ空欄でも構いません)								
教員からの講評・アドバイス (※記入不要)									
教員名									

事後評価シート									
事中（中間）～終了時までの評価									
氏名	学籍番号	記入日	平成	年	月	日	科目	担当教員	
所属	学部・研究科		学科・専攻		学年	年	協力企業	外部評価者	
活動内容		(進捗状況を箇条書きで記入。できれば、詳細に記入することが望ましい。)							
社会人基礎力の分類	能力要素	自己のレベル評価	評価の根拠(具体的行動事実) (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫をすることにより発揮(しよう)したか? 思えば、もつと努力や工夫が必要と感じたか?)	教員のレベル評価 (※記入不要)	評価の根拠 (具体的行動事実) (※記入不要)	外部評価者のレベル評価 (※記入不要)	評価の根拠 (具体的行動事実) (※記入不要)	教員と外部評価者の総合評価 (※記入不要)	今後の行動目標
前に踏み出す力	主体性								
	働きかけ力								
考え抜く力	実行力								
	課題発見力								
	計画力								
チームで働く力	創造力								
	発信力								
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
	ストレスコントロール力								
その他習得を目指す知識・スキル等		実際に活用した(学んだ)知識・スキル等 (例: 重回帰分析を学び、実際にデータ分析をしてみた)		気づいたこと (例: 回帰分析だけでなく、色々な分析手法の重要性がわかった)		今後の行動計画 (例: 統計ツールを使いこなせるようになりたい)			
現在の活動の達成度から見た今後の行動目標		(例: 商品提案のために調査を実施したので、具体的な立案を進めたい。企業への提案時に指摘されたことを踏まえ、改善案をまとめたい 等)							
教員への連絡・相談 (※記入不要)		(特になければ空欄でも構いません)							

資料 8

【事後】評価シート②

プロジェクト活動全体の振り返り

分類	要素	事前 レベル	中間 レベル	事後 レベル	具体的行動事実 (能力要素レベルの推移を 証明できる事実)		関連科目名	内容	
前に踏み出す 力 (アクション)	主体性					活用した (学んだ) 専門知識 やスキル等			
	働きかけ力								
	実行力								
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力								
	計画力								
	創造力								
チームで働く力 (チームワーク)	発信力					(チームと しての) 活動成果			
	傾聴力								
	柔軟性								
	状況把握力								
	規律性								
	ストレスコントロール力								
教員からの講評・アドバイス (※記入不要)									
							教員名		

活動記録シート				…学生本人記入欄		…教員記入欄	
氏名		学籍番号		記入日	平成 年 月 日 ()		
所属	学部・研究科		学科・専攻		学年		年
活動期間	月 日 () ~ 月 日 ()				第 週		
活動の内容							
分類	能力要素	発揮(しよう)した または 発揮できなかった 能力	評価の根拠 (いつ、どんな状況(場面)で、どのように努力または工夫することにより発揮(しよう)したと思うか、もっと努力や工夫が必要と感じたか等を具体的に記入)				
前に踏み出す力 (アクション)	主体性		以下の基準で、評価する レベル1: 発揮できなかった(どうしてもできなかった) レベル2: 通常状況では発揮できた(何とかできた) レベル3: 通常状況で効果的に発揮できた(見事にできた) 困難な状況でも発揮できた(とても難しかったが、何とかできた)				
	働きかけ力						
	実行力						
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力		以下のような場面などを思い出し、そのような場面があれば、発揮できたかどうかを振り返ってください。 主体性…課題解決に向けて、自分から行動を起こすことができたか 働きかけ力…他人を巻き込むために働きかけなければならない場面 実行力…決めたことを最後までやり抜くことができたか 課題発見力…現状を分析して、何が問題かを見つけることをしたか 計画力…目標達成に向けて、計画を作成・確認・修正したか 創造力…課題解決のために新しいアイデアや解決策を提案できたか 発信力…自分の意見を他人に分かり易く話さなければならない場面 傾聴力…他人が話している内容を聞き取らなければならない場面 柔軟性…自分と他人の意見が食い違ってしまった場面 状況把握力…他人と協働するため、周囲の状況によく配慮して行動しなければならない場面 規律性…約束・ルール・マナーを気を付けなければならない場面 ストレスコントロール力…目標達成のために、ストレスを感じた場面				
	計画力						
	創造力						
チームで働く力 (チームワーク)	発信力		裏面に12の能力要素の説明をつけておく				
	傾聴力						
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性						
	ストレスコントロール力						
教員への連絡・質問・悩み・その他(問題点を含むチームの活動状況)							
担当教員からのコメント							

資料 10

シラバスの項目説明

講義目的（要旨）

「講義目的（要旨）」

講義の目的（要旨）、概要等について、わかりやすく簡潔に記入してください。

授業内容・授業計画

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- (15.)

「授業内容・授業計画」

授業計画について、授業回ごとに記載してください。
 なお、演習科目等、各回の内容を記すことが難しい場合は、例えば、○回～○回と、まとめて記載するなどしてください

準備学習等
（事前・事後学習）

「準備学習等（事前・事後学習）」

単位制度では、授業時間外に必要な学修等を考慮して、45時間相当の学修量をもって1単位と定められています。
 受講学生が授業前後の学習を行いやすいよう、事前に読んでおくべき教科書の頁など、予習・復習すべき内容について、記載してください。

履修上の注意

「履修上の注意」

履修するうえで必要な事項・注意すべき事項について記載してください。また、出席確認システムを使用する場合は、その旨を記載してください。
 ＜出席確認システムを使用する場合の記載例＞
 出席確認は、出席確認システムを使用しますので、授業開始前に必ず出席確認端末に学生証をかざしてください。

授業の到達目標

「授業の達成目標」

学生に達成させるべき到達目標について記載してください。

「身に付く力」

授業を通して、右表のような社会で生かせる基本的な力などの「身に付く力」があれば記載してください。なお、この「身に付く力」の記載方法は、右表にあるキーワードから選択する場合（事例 1）、別のキーワードを記載する場合（事例 2）、前後の文章を付けて記載する場合（事例 3）など、科目形態によって各教員の判断により選択してください。

＜事例 1：キーワードから選択する場合＞

論理的思考力（課題発見力）、
コミュニケーションスキル（傾聴力）

＜事例 2：別のキーワードを記載する場合＞

コミュニケーションスキル（説得力）

＜事例 3：前後の文章を付けて記載する場合＞

- ・授業におけるディベートを通して、論理的な分析力・傾聴力および発信力を育成する。
- ・ゼミの共同研究・運営等を通して、チームワーク・調べる力・考える力・発信力などを身につける。

「身に付く力」のキーワード

論理的思考力	実践力	コミュニケーションスキル	態度・志向性
課題発見力	リーダーシップ	状況把握力	規律性
計画力	働きかけ力	傾聴力	ストレスコントロール力
創造力	実行力	柔軟性	市民としての社会的責任
論理的分析力	主体性	発信力	生涯学習力
総合的判断力		語学力	バリエーション

身に付く力

評価方法

「評価方法」

定期試験・課題レポート・出席点等、どのような評価方法で成績評価を行うかの割合（合計 100%）について具体的にパーセントで記載してください

なお、平常点については、例のように（ ）内に補足するなど、わかり易く記載してください。

＜記載例＞

- ・定期試験（筆記試験）80%、授業で課すレポート（2～3 回）20%
- ・発表 70～80%、平常点（授業への参加度合い）30～20%

教材

教科書 : 著者名『書名：副書名 版表示』（出版社、出版名）

参考書等 : 著者名『書名：副書名 版表示』（出版社、出版名）

指定図書 : 著者名『書名：副書名 版表示』（出版社、出版名）

参照 URL : <http://www.kyoto-su.ac.jp/>

「教材」

教材について、必要な場合は記載してください。記載の際には、次の点にご注意ください。

教科書 : 受講生に購入を課すもの

参考書等 : 授業に関連して必要な資料だが、必ずしも購入しなくてよいもの

指定図書 : 受講生に通読または章・頁等を指定して必読を課すもの

参照 URL : 参考とすべき URL

※洋書の場合、『書名：副書名』は斜体を使用してください。

◆報道された新聞記事・雑誌等

社会人に不可欠な「チームで働く力」は、大学のうちから養うことができる。

「このままじゃ意見がまとまらない。リーダー交代が必要だと思う」

企業から与えられた課題をチームで議論し、提案をまとめる京都産業大学の社会人基礎力プログラム。大手種苗会社「タキイ種苗」(京都市)の課題に取り組むチームのリーダー、経済学部3年森川由さん(20)の発案に、他のメンバーは沈黙した。

タキイ種苗が4月に提示したテーマは、「将来の日本農業に種苗メーカーが果たせる役割は何か」。専門的かつ大きなテーマだが、「難しいテーマに挑戦したい」と、文系・理系学部から2、3年生6人が集まった。

議論は迷走した。「食の安全・安心を守るべきだ」「海外市場を開拓したら?」「食料自給率の低



教育ルネサンス

No.1131

社会人基礎力 2

「チームで働く力」養う

さが問題だ。チームは6月の中間報告で方向性を定められないまま発表し、メンバーは焦っていた。

昨年も同プログラムを受けた森川さんは、経験と冷静な分析力で信頼は厚かったが、優しい性格ゆえに意見を集約できない責任を重く受け止めていた。「わかった。それなら交代してもらおう」

チームは6月、経営学部3年の青山祐太さん(21)を新リーダーとし、最終報告会に向けて議論を立て直した。同大教育プロジェクトスタッフの中尾憲司さん(36)も「私が助け舟を出すと勉強にならない」と学生たちの判断を見守った。

「チームで働く力」は、経済産業省が示す社会人基礎力12要素のうち6要素を占める大事な能力だ。①意見を述べる「発信力」②他人の意見を

聴く「傾聴力」③意見の違いを理解する「柔軟性」などがある。

中川正明・同大キャリア教育研究開発センターディレクター(62)は、2、3年生24人が受講する同大の課題解決型

プログラムについて、「違う学部の学生同士がそれぞれの専門を生かして協力する。3年生はチームを引っ張り、2年生はリーダーに従う立場を学ぶ」と説明する。

が行われ、学生たちは、企業で一般的に導入されている「PDCAサイクル」を用いて、社会人基礎力の到達度を自己評価する。このほか、昨年度からは、企業経営者らに少人数グループでインタビューし発表する学習を1年生対象に実施している。

青山さんらは今月26日の最終報告会に向け、何とか提案の方向性を絞りつつある。多くの市民に農業に親しんでもらえるよう、貸し農園事業を支援し、種を提供できないだろうか。

「実現は難しいと言われるかもしれないが、自分たちなりに提案の根拠をしっかりと示したい」と意気込む青山さん。これに対し、タキイ種苗の本田学・人事課長(42)は「我々が思いつかない発想を期待したい」と話す。

優秀な人材も、孤立しては才能を生かせない。「チームで働く力」の大切さを学ぶ意義が見直されている。

(瀬昌義孝、写真も)



タキイ種苗社員(右)から同社の事業について説明を受ける京都産業大学の学生(8月11日、京都市の同社本社で)

PDCAサイクル 企業や組織の管理手法の一つ。業務を遂行する際、PLAN(計画)、DO(実行)、CHECK(検証)、ACTION(改善)を循環的に継続することで、業務の改善や効率化をはかる。

ご意見は〒100・8055読売新聞東京本社教育取材班へ。ファクス03・3217・9908、メールkyouiku@yomiuri.com

読売新聞【朝刊】(2009年9月9日)

THE LANGUAGE CONNECTION

EDUCATIONAL RENAISSANCE

Teamwork not so easy

The following is an excerpt from *The Yomiuri Shimbun's Educational Renaissance* series. This part of the series, continued from last week, focuses on efforts to help students develop basic skills to serve as full members of society.

By Giko Sehata
Yomiuri Shimbun Staff Writer

KYOTO Sangyo University (KSU) gives its students an opportunity to learn what teamwork is through a problem-solving program that is open to students from different years and different departments. The private university is one of the higher educational institutions chosen by the ministry for pilot projects to foster basic skills for working people.

This year's program attracted 34 sophomores and juniors, who were divided into several groups in April. They then started discussions aimed at coming up with responses to tasks presented by business entities.

Takii & Co., a Kyoto-based major seed and plant supplier, for example, posed the following

task: "What role can a nursery play in the future of Japan's agriculture?"

Six students formed a team to work on this challenge, choosing Hiroshi Morikawa, 20, as their leader.

The economics major enjoyed the confidence of the other members because he had participated in the same program in the previous school year. They also perceived him to have the ability to analyze things in a levelheaded manner.

However, Morikawa soon found his team's discussions had reached an impasse. One member insisted that Takii should focus on food safety, while another proposed that the company explore overseas markets. Yet another focused on the nation's low level of food self-sufficiency.

Morikawa's team had failed to decide which course its future discussions would take by the time the participating teams were due to make their midterm presentations in June.

Morikawa himself felt a strong sense of responsibility for having failed to find common ground between members' differing opinions, reportedly due to his easygoing attitude. At a discussion session soon after the presentation, he came up with a proposal.

"I believe I should be replaced by a new leader," he said. "Otherwise we won't be able to reach a consensus."

This silenced the team at first, but they eventu-

ally accepted Morikawa's proposal because they all felt frustration about their unsuccessful presentation.

As his successor, the team picked Yuta Aoyama, a 21-year-old junior majoring in business administration. Under Aoyama's leadership, the team started discussions all over again.

The group was supervised by Kenji Nakao, 36, a staff member in charge of the university's educational projects. He only observed the discussion process, saying, "Should I step in to help, they won't learn anything."

The six ministry-specified basic skills that fall into the "teamwork" set include expressing one's own opinions, listening to others' remarks and having the mental flexibility to understand different opinions.

Masaaki Nakagawa, 62, director of the university's Center of Research and Development for Cooperative Education, said it was important for the program to accept both sophomores and juniors with different majors.

"Students from different departments have to cooperate with each other by taking advantage of their respective specialties," Nakagawa said. "The juniors develop leadership skills, while the sophomores learn how to cooperate with their leaders."

The program features the "plan-do-check-act" cycle, a process typically used in the business sector to improve practices or efficiency. In the



Kyoto Sangyo University students listen to a Takii & Co. employee discussing the nursery firm's business as part of the school's program to make proposals to business entities.

course's weekly sessions, the students always use the method to evaluate themselves on how well they are doing according to the ministry's "basic skills for working people."

Since becoming the new leader of the team, Aoyama has been effective in leading the group's discussions. In his proposal, the team wondered if it would be possible for

people becoming familiar with agriculture. "We may be told that this would be difficult, but we'd like to present reasoning that we believe can support our proposal," Aoyama said before the final presentation, which was held at the end of last month.

Incoming employees evaluate selves on 'basic skills'

By Kenjiro Ito
Yomiuri Shimbun Staff Writer

KAWASAKI-An "A" for "action," "A" for "thinking." Another "A" for "teamwork." These are the elements of the ATT Challenge, a training program that Fujitsu Ltd. holds for new and prospective employees. In late August, 34 university students in business attire reported to the major electronics firm's factory in Kawasaki to begin their ATT Challenge training. The young people are scheduled to join the Fujitsu workforce after graduating next April.

ATT Challenge is an example of how businesses, as well as universities, are trying to help young people develop what the Economy, Trade and Industry Ministry calls "basic skills for working people." The 12 skills are divided into action, thinking and teamwork categories.

Fujitsu introduced the training program in 2008—three years after the ministry came up with the concept—as it regards the basic skills

idea as "a common language" that the university and private sectors should share.

ATT Challenge lasts for about three years starting from the time Fujitsu makes unofficial decisions to hire job-seeking students, up to the end of their second year at the company.

The featured speaker started the first day program with an order: "Come up with a goal that you want to realize so that you can spend your remaining days as students in their best effect."

One participant wrote that he wanted to make a presentation at an international conference, while another wrote that she wanted to take a round the world trip.

The featured speaker started the first day program with an order: "Come up with a goal that you want to realize so that you can spend your remaining days as students in their best effect."

One participant wrote that he wanted to make a presentation at an international conference, while another wrote that she wanted to take a round the world trip.

at the earliest point in Fujitsu's screening process. When applying to the company, job-seeking students are asked to rate their capabilities on a five-point scale regarding each of the basic skills.

"Such self-evaluations alone are not a crucial factor in deciding which applicants to eliminate from the screening process," said Junjo Hayashida, 41, a senior official of Fujitsu's recruiting center. "However, if we find these self-evaluations contradict what the applicants tell us about themselves in other parts of the process, we'll not deem them the discrepancy when we interview them."

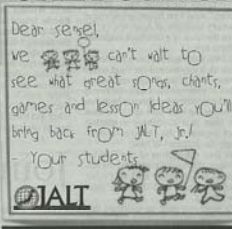
As one of its most notable features, ATT Challenge requires Fujitsu's novice employees to do the self-assessment a total of nine more times—three times before officially entering its workforce, twice during the first two months after joining in the company, and four more times by the end of their second year. Moreover, the scale is a nine-point one for these nine self-evaluations.

"It's not important that you can improve your rating, for example, from five to seven," Hayashida said. "What is more important is to find out how you can improve your self-evaluation levels or to determine which skills you still need to work on."

Participants included Ryoma Imabishi, a senior at Waseda University. "I realize that I'm weak in planning skills (such as determining the process to solve a problem) and listening to others' opinions," the 21-year-old said. "Today's program helped me discover something I'm not aware of in everyday life."

英語コラム難易度 (初・中級別別)
"Film Takes" (初・中級別別)
"Exploring..." (中級別別)
"Using the D.Y." (中級別別)
"Testing Translation" (上級別別)

JALT Junior



Granship, Shizuoka, Nov. 21st - 23rd
www.jalt.org/conference

デイリー読売 (2009年12月9日)

CASE 5 企業との連携

1年次から始める大学主導のインターンシップ

京都産業大学

京都産業大学は、1年次からの体系的なキャリア教育に力を入れている。大学での学習とインターンシップを「サンドイッチ方式」で交互に繰り返すプログラムや、社会人基礎力の考え方を取り入れた課題解決型のプログラムなどで、企業と連携、共通教育・専門教育にも、キャリア教育の視点を入れようとしている。

4年一貫のプログラムで教育体験を4回継続

京都産業大学は、入学当初から産学連携に積極的に取り組んできた。その代表的なものが、産学に開かれた体系的なキャリア教育「日本企業コア教育」だ。2004年度に始め、2004年度の脱GPIに認定された。

「コア教育」は Cooperative Education のこと。全米コア教育委員会では、次のように定義している。「教室での学習と、学生の学習上・職業上の目標に関連する分野での実習を連続して行う。組織化された教育戦略」(NPO法人産学連携推進フォーラム)。

キャリア教育研究開発センターの中川明雄ディレクターは、「一般的なインターンシップは3年生が中心で、企業体験としても受け手を中堅以上の学生が限られる。学びを深化させるには、大学が主体的に関与し、1年生も対象に。産学大学教育と連携させる必要がある」と話す。

こうして生まれたのが4年一貫の「オン・オフ・キャンパス・フュージョン(O/O/CP)」だ。コア教育の中核的プログラムで、学内で

の学習と学外でのインターンシップを交互に繰り返す「サンドイッチ方式」を採用。オン・オフのプログラムを4年間で4回繰り返す。スライムな教育効果向上をねらう。学外で自分に何が必要なのかを見つけるうえで、大学に頼って主体的に学ぶことは、というのが大学の考えだ。

O/O/CPの定員は100名。1年次の受講生のうち、4年連続する者は約半数だ。目標を見つければ、それに専心するようになるという積極的なケースもある。インターンシップ先の関係者と意思疎通して本人が行うなど、受講生は大きな成長を遂げている。

O/O/CPの成功要因は、キャリア教育を支える学内体制にある。中川

学生インタビュー

最大の収穫は
向上心
経営学部
会計・ファイナンス学科3年
片岡 仁二

2年生からO/O/CP-PBLに参加して、自分が変化しつつあるのを痛感。前年度の企業イベントで、学生向けの個別イベントの企画など、企業から与えられた課題に挑むことで、将来の目標が明確になり、企業体験を通して自分の強みや弱みを発見。企業での経験が、社会人として、自分自身に向上心を与えたことが最大の収穫です。

PBLの重要性を
実感
経営学部
経営学科1年
土方 晴樹

大学生になるまで社会との接点がなく、1年生から企業体験ができるO/O/CPに魅力を感じて参加しました。最初のインターンシップは社会人へのインターンシップで、大学で何を学んだかという疑問を抱きながら参加。企業での経験が、社会人として、自分自身に向上心を与えたことが最大の収穫です。

ディレクターは、「本学は10年前から、企業と連携した「教育インターンシップ」を、教員の協力を得ながら推進してきた。このため教育効果につながっている」と話す。

2005年度には、企業や人材コンサルタントなどの外部人材も活用しながら、教育研究開発センターに「キャリア教育研究開発センター」を設立。各学部のキャリア教育を支援する目的で、科目を企画し、授業を担う。検証も行う。センターに所属する教員がキャリア教育について学び合い、そのための知見を通してキャリア教育に対する学問的な意識を醸成する。センターがキャリア教育の推進に力を入れることによって、ステップアップ型キャリア教育に対する高い意識を、学内に「浸透」し、共有する体制を整えた。

課題解決型手法を用いた「O/O/CP-PBL」を導入

O/O/CPは7年目を迎え、関係者が見えてきた。インターンシップで得た気づきが持続しにくいことや、インターンシップのみで4年間のプログラムを構成することの限界など、キャリア教育研究開発センター事務長の林誠二は、「インターンシップは単年度の効果はあるが、それを何度も積み重ねながら内容を高度化するのには難しい。成果は学生個人の力で吸収しただけだと、課題解決のため、2008年度に新たなプログラムを始めた。課題解決、チームワーク、コーチングの方法を用いる「O/O/CP-PBL」だ。O/O/CP(PBL: Project-Based Learning)を取り入れたもので、学生が個人のチームを組む。企業から与えられた現実的な課題に挑む。これは2008年

度の経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」および2009年度の経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」のモデル校に選定された。学内の学習でインターンシップと同様の効果をもたらすのがねらいだ。

1年生は社会人へのイメージを育て、2・3年生は社会のおおむねを学び、4・5年生は社会の深層に学ぶ。O/O/CP-PBLの受講生と非受講生の社会人基礎力について調査したところ、自己評価に差は見られ、有効性が確認された。2009年度から順次、O/O/CP-PBLに移行し、2012年度にはO/O/CP-PBLに一本化する。

共通・専門教育にも社会人基礎力の視点

共通教育、専門教育との連携も、キャリア教育の観点から見直した。中川ディレクターは、「キャリア教育の推進目標は、卒業後の人生を支える根幹的な能力の養成。大学教育の核である共通科目・専門科目と連携させる必要がある」と話す。

社会人基礎力の考え方を活用してキャリア形成支援の観点から授業内容を再構築し、学生理解教育全体でキャリア教育に取り組もうというわけだ。O/O/CP-PBLをはじめとするキャリア教育科目と共通教育・専門教育によるトータルなキャリア支援を目指す。



社会人基礎力養成セミナー 京都産業大や京都能率協会などが4月21日から6月23日までの計4日、京都市中京区の京都商工会議所で、企業の新入社員が対象。京産大が開発したプログラムを活用し、社会人としての心構えやコミュニケーション能力を身につける。受講料は全4回で1万7千円。問い合わせは京都能率協会 ☎075(212)6446。

京都新聞【朝刊】(2009年2月20日)

京産大の企業学習 経産省事業に採択
京都産業大の企業の課題解決型学習プログラムが、経済産業省の本年度の「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」に採択された。
プログラムは、京都の民間企業三社と京産大が示した課題に対し、学生が日ごろ大学で学んでいる知識を生かして企画案や解決案を作成する。
全国の二十八大学から応募があり、九大学が採択された。京産大は二年連続の採択。
(松尾浩道)

京都新聞【朝刊】(2009年4月7日)

社会人編

大卒者の三人に一人が三年以内に離職している。こうした現状に、京都産業大（京都市北区）ではキャリア教育の一環として注目を集める「社



グループを組んでキャリア教育に取り組む大学生たち。担当教官は「課題解決のためのコミュニケーションの中で自分の立ち位置を獲得し、気持ちの上での『ミスマッチ』を解消してほしい」と呼びかける（京都市北区・京都産業大）

会人基礎力」養成の講座を開く。担当の後藤文彦教授（68）は「仕事のやりがいを自ら見いだし、つかみ取って」と新社会人に求める。週一回、半期にわたる講座でまず重視したのは、関係性を方向付ける初対面での自己開示の力

日常のワクワク、仕事のやりがいに

という。毎回、一週間でワクワクした経験について三分間スピーチを課す。だが、「話す内容が心躍らせるべき事柄なのかに自信が持てない姿」が浮かぶという。「ワクワクできるかどうかの答えは自分にしかない」と力説する。童話に例えて後藤教授は語る。「青い鳥がどこかにいると思って一生懸命探していたら実は隣にいた。青い鳥、それは「仕事のやりがい」だと。日常にあるワクワクを感じ取ってやろうという「アンテナ」を張ってほしいと願う。また、社会人の先輩に仕事ぶりを尋ねる点にも力を入れる。特に勧めるのが、親など身近な人へのインタビュー。「職業に就く際、希望と同時により大きな不安がある。それを乗り越え、仕事を続けられた経験を面と向かって聴いてみて」

京都新聞【朝刊】（2009年3月25日）

社会で活躍できる人材育成

社会人基礎力育成グランプリ

西日本予選大会開催

大学生らが授業やゼミ活動などを通してさまざまな課題に挑戦し、その成果と人間的成長の度合いを競い合う「社会人基礎力育成グランプリ」。経済産業省が産学連携を進めている若者の育成・評価モデル事業のひとつで、将来社会に出たときに職場や地域で活躍できる力を早い段階から養ってもらうのが狙いだ。その西日本予選大会がこのほど、大阪市北区の大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開かれ、西日本エリアの25大学が出場。若さと創意あふれる実践例が報告された。

12月15日。大阪国際会議場の予選会場では、パワーポイントを使って大画面に映し出された「歩行支援ロボット」の開発プロジェクトが会場の注目を集めていた。

25大学が出場 若さと創意あふれる実践例を報告



大阪国際会議場で開催された「社会人基礎力育成グランプリ」の西日本予選大会。若者らしい実践例が報告された

なかで互いの信頼感が生まれ、チームワークを維持するうえで必要になるコミュニケーション力や、最後まであきらめずに課題に向き合う熱意の大切さを実感したという。

チームリーダーを務めた情報科学部4年、山本義喜さん（ひ）は「技術開発は人間同士の心が通い合ってこそ可能になることが分かった。社会に出てからの経験を生かしていくには、プロジェクトを側面支援した同大ヒューマンロボテックス研究開発センター長の佐野睦夫教授も「学生自身が

大会を通じて自分たちの成長過程を振り返ることができ、とても有意義だった」と語る。

また、京都産業大学チームは京都・山城地域の万葉歌碑めぐりのリーフレットを作成した3年のゼミ生が活動成果を発表。関西学院大学、阪南大学、流通科学大学とともに西日本地区の代表に選ばれた。チームリ

若者の育成・評価モデル事業

必要になるさまざまな側面が見えてきたのも大きな成果です」と話した。

年目の今年初めて東西に分かれて予選大会を実施。東日本の代表4大学を合わせ



京都産業大学 広報室長
井上 正樹

12月22日、京都産業大学に天文台が完成した。私立大学では国内最大となる1.3mの天体望遠鏡（光学赤外線望遠鏡）を備えており、約20億光年先の天体まで観測できるという。大学の研究・教育に活用するほか、来年4月以降に一般への公開も予定しており、子供から大人まで大宇宙の神秘に触れていただく機会になればと思う。

なぜ京都産業大学が天文台を？と不思議に思われる方もいるかもしれない。天文学者である荒木俊馬が創設した本学は、開学当初から天文学・天体力学・宇宙物理学の教育・研究に取り組んできた経緯があり、大学の「建学の精神」を具現化するものとして天文台が設置されたのである。

このように宇宙と関わりを持つ本学のシンボルマークは「サギタリウス（射手座）」。大宇宙をかけめぐるとこの星座のように、雄飛する若者の希望と未来をあらわしている。その名を冠した「サギタリウス・チャレンジ」という学生支援プログラムがある。夢や興味に果敢に挑戦する学生を応援しようと、優秀な作品やユニークな企画に対して奨励金を授与し大学が学生の活動をサポートする。

特に「こんなことをやってみよう」という企画を応援するチャレンジ部門では、毎年、学生がユニークな企画に挑戦している。北海道から沖縄まで自転車縦断しながら自治体による町おこし例を調べた企画や、留学生と一緒に地域に新たな「祭り」をつくらうとした企画など、学生たちの果敢なチャレンジには、「サギタリウス」の名にふさわしく、未来に向かって雄飛しようとするひたむきな姿勢がうかがえる。

新年を迎えるにあたり、私も宇宙を望むような大きな夢を持ちたいと思う。

人間的成長を競い合う

このプロジェクトの背景にあるのが、IT（情報通信技術）の進展などに伴って進んでいるといわれる若者の対人関係の希薄化。例えば、携帯電話やパソコンに過度に依存した生活の影響で人間関係がうまく築けない学生が増えているという。

このため、経済産業省は2007年度から社会人基礎力の育成を目的に産学連携事業をスタートさせた。「社会人基礎力育成グランプリ」はこの成果の発表の場として開かれており、3

産経新聞では、MSN産経ニュースの中に「関西の教育情報」サイトを設置。大学院、大学、私立中高、専門学校やイベントなどの情報を発信しています。ぜひご覧ください。

click!

<http://www.sankei.co.jp/kyoiku/>

する学生を育ててほしい。そのシンボルともいえるイベントになれば」と話している。



あさのあつこさんのトークショーを開催
追手門学院大学（大阪府茨木市）は、文章表現コンクール「『青が散る』アワード」の表彰記念イベントとして、2010年1月30日（土）午後3時から同学院・大阪城スクエア（大阪市中央区）で、「青春・ス

ポーツ・物語」をテーマに作家・あさのあつこさん（写真）を迎えたトークショーを開催。一般400人を先着で無料招待する。参加希望者は、郵便番号、住所、氏名、電話番号または携帯電話番号、メ

10月も半ばを過ぎ、11年春に卒業する3年生の就活が本格化しはじめた。しかし、雇用をめぐる環境は最悪だ。

8月の有効求人倍率は0.42倍と、2カ月連続で過去最低を記録した。雇用動向調査によれば、転職した結果、前職より「賃金が減った」人の割合は33.5%にのぼり、「増加した」(33.2%)を4年ぶりに上回った。

そんな状況にもかかわらず、大卒者の3年以内の離職率は30%台半ばと高止まりしている(グラフ参照)。せっかく苦労して就職先を決めても、すぐ辞めてしまう人が少なくないのだ。

その理由は何か――。

キャリア教育と就職率

経済産業省が民間企業440社を対象に行った若手社員の早期離職に関するアンケート(05年実施)では「採用時のミスマッチ」と答えた企業が42%にのぼった。このミスマッチを防ぐため、経産省は大学で「社会人基礎力」を育むことを提唱している。冒頭で紹介した愛知学泉大も、経産省が今年度のモデル校としている12大学のうちの1つだ。大学のシラバスには、「社会人基礎力」の内容に沿って、その授業の単位を取得するとど

んな力が身につくと想定されるかが明記されている。

京都産業大学(京都市)も、モデル校の一つ。キャリア教育関連で18科目を擁する。企業任せではなく、大学がインターンシップの内容に積極的に関与する「コーオペ教育」の導入などに取り組んでいる。これらのキャリア科目は就職実績にも貢献していると、キャリア教育研究開発センターの林誠次事務長は言う。

「08、09年の卒業生を成績に準じて五つのグループに大別し、その最下位層でキャリア科目を受講した学生と、そうでない学生の就職率を比較しました。すると、未履修の学生は70%、座



文化学部
アメリカ文化コース

野木美咲さん
京都銀行に内定。当初は英語力を活かせる航空・ホテル業界を志望していたが、一生働き続けられる業種を考えた。卒業まで、学生アドバイザーとして後輩たちの就職相談に応じる

京都産業大学

学生数 1万2719人 (5月1日現在)
1965年に経済、理の2学部で開学。現在は、経営、法、外国語、工、文化、コンピュータ理工を加えた8学部体制。来年度から総合生命科学部が新設される

主な就職先 (2009年実績・大学通信調べ)
32人…京都中央信用金庫 / 27人…日本生命保険 / 26人…京都銀行 / 25人…三井住友銀行 / 22人…京都信用金庫、みずほフィナンシャルグループ / 15人…JR西日本

学のみ履修の学生は78%、インターンシップなどの実践系科目を履修した学生は88.5%と、就職率で大きな差が出たんです。文化学部アメリカ文化コース4年の野木美咲さんも、実践系キャリア科目を受講した学生の一人だ。就活を始めたばかりのころ、学生時代に頑張ったこととして総業元り場でのアルバイトの経験を話していた。しかし、どうも面接官の食いつきが悪い。相談に出かけると、キャリアアドバイザーから意外な指摘を受けた。野木さんは言う。

「社会とつながりがある経験を話したほうがいいと思います。バイトの話をしていただけです。でも、実は私、成績優秀者として2年連続で表彰を受けていて……。勉強ばかりやっていてという印象を持たれたくないと思って、そのことにはあまり触れないようにしていたんですが」

それからは、エントリーシートにも「効率よく考えて勉学に取り組んだこと」を書くようにした。結果、4月の終わりにには京都銀行から内々定を得た。

学びへの興味取り戻す

多くの学生は、「大学で学んだことは、社会に出てから役に立たない」という認識を持っているようだ。その傾向を改め、専門分野を学ぶことが実社会とどのように結びつくかを実感し、学びへの興味を取り戻すことも、

「社会人基礎力」を高める重要な目的である。

先に紹介した愛知学泉大の卒業生で、「弁当プロジェクト」1期生の文岡正憲さん(23)は、当時の経験を振り返る。

「あの頃は専門紙まで読み込んで、小売業のことを勉強していました。結局、就職は地元の碧海信用金庫に決まったのですが、働き始めてから、顧客の方に中小企業に対する融資制度について尋ねられ、言葉に詰まってしまったことがあり、一生懸命に勉強していた学生の頃を思い出したんです。勉強することの大切さを改めて思いました」

兵庫県西宮市にある関西学院大学副学長の定藤繁樹教授も、学生のうちに「社会」と出合い、勉強することの意義を知ること

